

日本書紀

廿九

太政官文庫			
二	一	九	八
〇	〇	二	八
册	架	函	號
			和書門

内閣文庫			
一	三	八	四
七	函	二	九
五	架	〇	一
架	册	册	號
			和書

内閣文庫			
番號	和	8498	
册數	20 (19)		
函號	137	40	



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



此本古 仁義牙二十九

天津中津儀貞 大天 下

上卷下卷正月の... 此本の目録みよめ

此本古

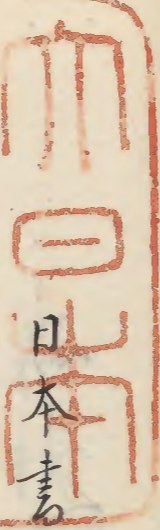
二月の... の...

...

...

...

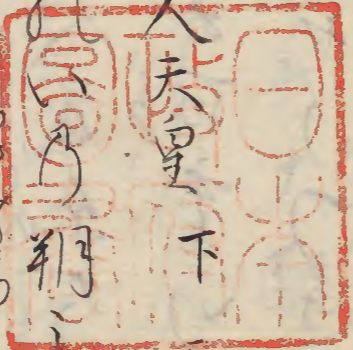
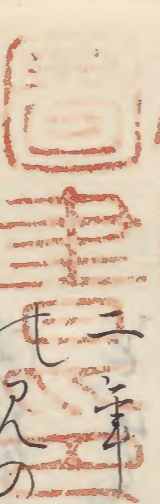
廣辻氏 藏書記



日本書紀卷第二十九



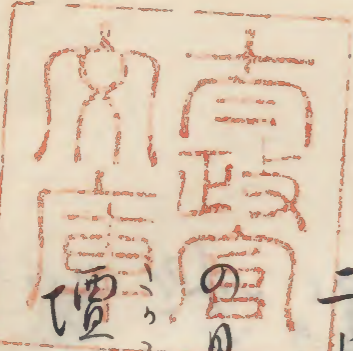
天原中原瀛真人



天武天皇

二年春正月乙未の日に
此見の日にふみきめ
詳に居りて
案

此ありて終



二月いのとれ見の朝之川のとれを

の天皇はつさふみことおろす

壇場まうけて荒島の津原原よあ

すつ日ほさあろしめを正妃を

て皇女とる一はさすは草壁皇女
を生ますはさすは皇女は太田皇
女をいれは太田皇女とる一はさすは
皇女とすは皇女とる一はさすは
大に皇女長皇子とる一はさすは
はさすは次妃新田御皇女舎人皇子
を生ますはさすは太田皇女とる一は
め張上りつるは太田皇女とる一は
はさすはの皇子を生ますはさすはの
太田皇女とる一はさすは

後我赤見大臣のむと免大能娘一と
一はさすはの皇子を生ますはさすはの
こと生ませりその一はさすはの皇子と
まうともはさすはの皇子とる一はさすは
その三は太田御皇女とる一はさすは
一はさすはの皇子を生ますはさすはの
て十市皇女とる一はさすはの皇子と
むる一はさすはの皇子を生ますはさすは
め一はさすはの皇子を生ますはさすは

次小完人^{ちせんのひと}臣大^{おほ}麻呂^{あさろ}らじまめうらひ
め^め此娘^{このむすめ}二^{ふた}うら乃いとみこ二^{ふた}うら
の女^{このむすめ}と生^なほせりその一^{ひと}とを^を
入^いる^り星^{ほし}子^ことほ^ろも^も其^{その}の二^{ふた}瓜^{うり}磯^{いそ}城^{じょう}
星^{ほし}子^ことほ^ろも^も其^{その}の三^{さん}瓜^{うり}磯^{いそ}を^を池^{いけ}
の星^{ほし}女^めとほ^ろも^もえ^えれ^れ瓜^{うり}磯^{いそ}純^{ただ}基^こ星^{ほし}女^め
とま^まう^うも^もき^きの^のと^とれ^れう^う乃^乃日^ひ有^あ勲^{いん}切^き
人^{ひと}あ^あう^うう^うた^たま^まふ^ふと^と差^さあり
三月^{さんげつ}い^いの^のん^んい^いぬ^ぬの^の朔^{しやく}う^うの^のえ^えと^とれ^れ日^ひ

浦^{うら}後^ご田^{でん}み^みと^とも^もう^う白^{しろ}雉^しと^とま^まめ^めれ^れ
ら^らり^り小^こら^らて^てあ^あて^てま^まら^らる^るも^もれ^れと^とら^ら
尚^{なほ}那^なの^の保^{たへ}後^ごと^とく^くも^もふ^ふゆ^ゆら^らさ^さふ^ふよ^よて^て
天^{あま}下^かよ^よた^たま^まは^はみ^みゆ^ゆら^ら終^{はつ}この^{この}月^{つき}敷^{しき}
生^{なま}と^とほ^ほく^くて^ても^もう^うめ^めて^て一^{ひと}切^き徑^{じやう}と^と川^{かわ}原^{はら}
ら^らふ^ふら^らう^うら^ら終^{はつ}この^{この}月^{つき}敷^{しき}
夏^{なつ}四^よ月^{げつ}い^いの^のえ^えと^とま^まの^の朔^{しやく}は^はち^ちれ^れと^との^のえ^え
の^の日^ひ大^{おほ}来^{きた}星^{ほし}女^めと^と天^{あま}照^{てる}を^を神^{かみ}あ^あま^まら^らう^う
し^しめ^めん^んと^とお^おひ^ひて^てら^らう^うを^をれ^れい^いと^と
白^{しろ}鹿^か

いのみをすくもるりしめ終ふ是れ
由り身証さや^{こよ}免て居りしつて神のみ
も^潔小ちりつつけりんとるり
夏六月このとれり此朝公卿大史を
よひ^と備長連兼侍造等よりみことけり
て^いけりし中^いくそれしめてお
免せん^いといまら大舍人よつりま
ほりしめ志ふりてのち^いに^いま
^いとえりみて^いも尚職よめてよ
^い

ほりたをやめハ史あると史あるを
よひ^い長知^いとるといそも^い免はつし
^い人とおし^いめを^いゆりて^いある
きめれ^いり^いた^いす^い人^いは^いつ^いさ^いある^い人
の例^いよる^い我^いは^いな^いり^いの^いと^いれ^いり^いれ
日大^い御上^い坂木^い財^い長^い率^いぬ^いり^いの^いん^いさ^いら^いの
と^いれ^いり^いり^いり^いよ^いて^いせ^いり^いの^い位
と^い繪^いり^いす^いふ^い

同六月このとれり此朝のみえとれ

日大^きうん^下け百^り俣の^さ宅^く昭^き明^めみま^らぬ
人^とる^り聡^さ明^め毅^き智^ちて^と時^とり^と秀^し茂^もと
い^はれ^ささ^ふふ^くみ^とお^と海^あ牙^が
ま^ーて^みめ^らら^らん^てり^てり^て
外^の小^の策^{さく}く^のの^を以^て賜^{たま}ふ^くさ^らひ^て本^の因^{いん}
大^の佐^さ平^{へい}の^のく^のを^とた^まふ^くさ^らひ^てり^て
う^の川^がの^の日^の耽^{たん}孫^{そん}よ^と天^{てん}子^し久^く麻^ま藤^{とう}部^ぶ
孫^{そん}守^{しゅ}麻^ま等^{とう}と^まし^てり^てり^て
て^まら^るは^らの^のと^れい^の日^の新^{しん}孫^{そん}より

韓^{かん}河^が食^{じき}えん^{せん}せ^ん美^み
會^{かい}や^や親^{しん}高^{こう}等^{とう}と^まし^てり^て
よ^うこ^りり^めり^いり^一吉^{きち}唵^{おん}こ^ん
了^{りょう}ら^い由^ゆか^んあ^み金^{きん}池^ち山^{さん}等^{とう}と^まし^て
して^し先^{せん}皇^{こう}れ^れ表^{ひょう}と^まし^てり^て
は^はい^じ細^{さい}波^はか^のを^まら^るつ^つい^い貴^き
千^{せん}寶^{ほう}貞^{てい}も^も兼^{けん}き^んさ^らり^り
と^はく^くよ^よら^らつ^つの^のえ^える^るれ^れ
日^に貴^き千^{せん}寶^{ほう}等^{とう}ふ^ふは^はく^くに^に饗^{きやう}食^{じき}た^たふ^ふい^い録^{ろく}

たまふおのくおれあり
それらに
くしり廻り人候

秋八月きのくはるる朝
之川のえさるの
の日評賀のふよくくる
紀長阿閉等に

みことのりして
之川のえさるれ
のりりの熱のくちを歌
一の家たか

もの一の終之川のとれの日言繁よ
上位頭大先邪子前親大えこえ
うあふはててくまきめてまう

ほりてあふりのえりま金利差
新元年のついとはり

とほりて言繁のついとはり
にとくあはらのえるれ日勝極よら
こいあてまりるはい金兼元中

客以上二十七人と系りめもよてみ
ことりらふおわせて航路のほい

おんことれりてのくあく天皇
あらまに天下平安てりめ
てりまり日付ふ志海一め次これ小

よていゆりしむい使女おいてこの外
かめつたまれらら母らうらうらえ
あつらりほし時さむく波あり久
くくさめきくいふつて使う
まへとさうん政まうくくさう
魚くくまけて用よんへ使王とまひ
使者久麻藤ありらうめて爵位
とたまふうれふりバ大し上るり使
ふさぬいものとりてこれをさ
備

里かの玉の依平位ふあつるすれら
ほくくまらうらうら

九月三日のつれうらの朔かのえ
川の日金養えあつる波よあ
まふ種くのうさまいとあてま
たまもの

賜物おのく
えんせんけん

冬十一月の人の称の朔金養えあ
まふ種くのうさまいとあてま
新屋の隆備ありはく
耶

大教よみあへぬまふあまのたまへ
ぬことをのぞきあがり

十二月三日のえいじまの羽衣のえいぬ
の日大嘗小佐くまら留中長忌部

とよひりんつらさの人等ありい

らりまたんも二國部司すく下はくさ

の人史ふとくくりに縁たまふよて

りて部司ありとくのくくろく一級

たまふはらのえいぬの日せりみ

の王せうごん小錦下紀信きしん訶多かたまらとよて

高市たかちの太寺たいじはくろつりやふふ今大

寺てら時ふ知事ちじふく人ひと信しん充みふよし知事

とよふとよふれれししゆゆりり縁縁ははままつつらの

ええててるるれれ日に義ぎ成じやう僧そうととりりてて小せう信しん部ぶふふるる

縁縁この日このひすすくく信しん長ちやうの二に信しんととすすりりて

ままににのの信しん長ちやうくく人ひと信しんははととけけりりめて

この時このときありありおおここままりりししてて大おん蔵ざうに

けけののととれれささりり

三〇春正月ののとれいの朔のえさる
れ日百保王のやくせいの亮とけせし
のころめとたきふ

二月がのとれえの朔つらのえさるの日
紀臣阿爾戸呂のみの天皇おろさ
いくれーえ結うりのえさるの空
しの後のりのとめて大望の佐
とたきふ

三月のえいぬの朔ひのえさるの日

はしのまの園司守のみののさや
はと大園のしの銀のめてのふま
りのあのとのまのしのれのらた
てのまのあのこのねのよのての大園の小綿の下久
らのめのあのうのあのふのたのまのきの銀ののや
まのの園のふのまのしのとのまのしのめ
てのこの時のふのあのうの坂のとのくのりの満の林
祇のまたのてのまのうの終のるの海のおのるのくの小
綿のうの上のはのこれの大の望の等のたの

ひり

秋八月つられえとこれ翔あえぬりの
日懸屋ひかりと石上の神いそのみまりほ

してあつとてし神宮とみる

しめ給きくたれ日えとれりてれ

ほくえ東あづま流ながる神府かみよ野のた

うゆれりのみ縁ゆかりりてしめよ

冬十月むのとれりの翔かうのとれ

らりの日大東あづま屋い女めららつつをの東あづまより

伊勢神宮ふまうて給

四年春正月むのんむまの翔か入い学がく寮さう

みんみららハハ生うおんんややほほささ外ぐわい業ぎやう寮さう

とよといい今いま衛ゑい女にょ法ほう屋ゑ女にょ百ひやく源げん王おうせんせん

新しん屋ゑははひひりりららふふくくままううととよよ

たたりりののととよよととううけけててああててほ

ひひろろいいののととれれむむははししのの日ひ屋ゑ子こより

下かりりのの百ひやく寮さう徳とく人にん朝あおおむむししほほららの

ささのの日ひ百ひやく寮さうのの徳とく人にんいいららりりととよよ

ほりいみりほをめてまらるかのえいぬ
の日薪くめてえん星をまてて弦
之何の人祢の日酒らきみりちり小胡延
よ宴あひらたまふられえいぬの日公ちりマ大夫
よよい百家の徳人うい物位ちりより上ちりほ
西門かのみの庭こよいく射まここの日まましこれ
玉あやよりちりふちりとままちり東あつ
國ちりよりちり白鷺ちりとちりまちりりちりの
玉ちりよりちり白鷺ちりとちりまちりらちりほちりれえ

まの日のちり華ちりとちり徳社ちりいちりまちりらちりあ
二月ちりきちりらちりとちりれいちりのちり朔ちりのちりとちりれいちり何
しちりれちり日ちりやちりまちりとちりかちりちりちりほちりのちりくちりにちりまちりま
しちりちりちりほちりちりちりらちりたちりんちりえちりあちりしちりほ
あちりらちりわちりらちりとちり得ちりせちりえちりのちりねちりらちりりちりホちり乃
國ちりよちりみちりとちりれちりりちりてちりめちりらちりほちりらちりくちり
所ちり郊ちりのちり百ちり姓ちりのちりよちりくちりちりちりらちり男ちり女ちりをちり
よちりいちり侏ちり儒ちり役ちり人ちりをちりえちりらちりてちりなちりくちりまちりらちり
まちりいちりのちりとちりれいちりの日ちり十ちり市ちり皇ちり女ちり阿ちり刑ちり皇ちり女ちり

平路神宮ふゆりてまをまつられとの
りーののみとれーての、
くさのく祢のー 徳氏よたまを
ー 歌曲し今よりゆくはこれと
やめんまー親王徳王とよい徳臣を
ひよ徳寺ふりたすー山は
浦 林葉いけ前後すいーやめん
い何のとれえののみとのりーてれ
まーまらきまきら百寮とよい

天下の人民もろーのあーさこ
るをこらうれーおーあらん
ものし事れまふーけみるらんい
とれらりの日天皇言安城よいてまを
この月新元より王子らけん大を
ん級舎金世孫大 奈末金らんら
才監大麻朴武麻才監 たいさらん清水
おとまーーてらさあてまら
るその通使すらん 風物奈末金
孝

うみく王子ら志りんを志はくしよと
く志はくしよ

三月きののとれみの朔いのみすまの
日ふん大神あや神カ一口あやとめて天皇り
きてはつり給はちのえじまの日
全えん内邦等よはくしよに餐あやゆき
それらえんはくしよりくか
たふ乃日きみ徳王日位あや栗隈王とあや武政
官長とるしあやせりあやんあや上あややあや大あや

はくしよしあや河と大補とるしよこの月
こほあやり大兄あや富あや十あや大兄あや多武あや少あや成
まあやしあやてあやしあやみあやきてあやまあやしあやるあや志
らあやさあやしあやるあや級あや食あや朴あやんあやしあや由あや大あや奈あや未
全あや義あや咲あやとあやしあやしあやてあやしあやしあや由
てあやまあやしあやるあや

友四月きののえいぬの朔つちのえこ
らの日あや傍あや尾あや二千あや日あや百あや條あやをあや清あやてあや大あやり
役あや兼あや加あやのあやとあやれあやしあやれあや日あや小あや錦あや上あや尚あや摩あやの

まみいら麻呂小錦ト久奴長中ノ二
人ヲみむとのりてる海にては
一先そむ何のえじすの目えこと
れりてれし海く徳國り
しれに不ら^祝い^まり^ゆく^さら^あ
きつりに百姓をえて先^と富^と貪^とを
りて三等^ふふえりい^てり^めて^まれ
ら中^戸より下^り貸^たま^ふ
し^のと^れい^何し^れ日^せし^小
業

みは五せりさんけ^{たへ}統^の伯^のの^と度^ら
是とま^りて^風神^と就^田の^立野^の
所^中り^小錦^中間^人蓋^大山^中
曾^祿連^韓大^とま^りて^大忌^神と
いろせの河^曲よ^いま^りし^じを
れとれいの日^小錦^下矢^努臣^才ら^みと
つ^いこ^りめ^る坐^より^官位^とし^くを
こ^らる^かの^えと^れ日^徳國^りみ^と
の^りて^めま^りく^今り

ゆくさ糸とら後うしろ編あ者ものと割きてお橙だいちりあ
るえぬえふえいえ施え機き檢けんふふののぬぬくくいいととを
ほほくくととそそままくく一一月げつのの朔しやくよりよりゆ
くくひひがが九く月げつ三十じゅう日にちよりより前まへふふははいいはは
少せう伎ぎ理り梁りやうととくくししののぬぬれれ又また牛うし馬ま大だい
猿ざる小せうハハととりりのの完かんるるくくいいそそここのの不ふり
ハハ禁きん制せいああくくととりり一一月げつのの朔しやくよりより前まへふふははいいはは
ららハハははふふるるななここんんかかののととれれううのの日にち三さん日にち
後ご麻ま王おうははいいくくああくくととりり一一月げつのの朔しやくよりより前まへふふははいいはは
後ご麻ま王おうははいいくくああくくととりり一一月げつのの朔しやくよりより前まへふふははいいはは

ふふつつ子こととハハ伊い豆ぢうのの鴻こうふふあありり一一子こ
ととハハ血ち麻まのの鴻こうふふるるくくいいそそここのの不ふり
此こゝ日にち法ぽう乃の藝ぎ者ものととええくくいいくくたたままのの
多たふふへへととののくく若わかあありりここのの月げつ朔しやく
飛とのの王おう子こちちけけんん強じやう波はりりにに
六ろく月げつ三さん日にちののととれれここりり此こゝ朔しやく三さん日にちののととれ
いいはは一いつ日にちのの日にち大だい分ぶん君きみ惠めぐみ大だい屋やままい
ししてて死しるる人ひととともも天てん皇わうおお不ふ承じやうよ
ににととああららみみくくののくくししててめめくくはは

いへる
くは恵人
とそむ
公ツルヤケの命いのちを行なすも遂雄おひりこ
とありて大役おほいさなり
ほのりめまんとおしりぬ
とて死しにつとる子孫うごのことハ
厚賞あきかんとのこまふそ外小波系とわがへのく
わう騰あつたたまりいさなりと
くは家業いへわざを継ついでぐ
秋七月之何のそれうの朔つらのと

のしりの日せうきん上あがりや大付連おほつけんくに
麻呂と大使あしひとや小波下とわがへ之宅やけ吉士よし
入石いりいしと副使ふくしとやしてあききにま
八月之何のえさるれ朔しつ航かう雁がんのえはが
つらひ王子せむい久麻くま行ゆきはくふとほるみ
川乃とのえの日大下おほした凡ふつあさて沙さとこ
とく屋やとこわ何むのえさるれ日忠ちゅう
え禮らいおつりてくる難波なんばより船ふね
ちと何らのとのいの日新にちしん蘇そ方ほう藤ふじ二に團だん

のこはあはくいはくこあへん小郷食たすい
縁もきくさるあ

九月ころのえとりの翔はらのえあ

川の日航死王姑こいふふし如難波りりる

冬十月かのとれい川りれ翔り川のとれ

ころれ日使ちうひをよもにまて一切経しつていんぎうと

をとめりむがのえあ川の日酒めりて

まらきみりころよこのあうりりりり

いのえいぬの日はくりりりりりり

人三十口めてまらりをれらりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりり

かのえとりれ日んとれりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりり

みの圃うらりりりりりりりりりりり

みりりりりりりりりりりりりりりり

十一月のとれりりりりりりりりりりり

りの日人ありてまの東の壱よのり

○たうりれりり
○のりりりり
○いりりりり

五月廿三日

月とら大ち地ち動どう
死しうせぬこの救きうよりりけりてこのあきぬ
ものことこと〜〜爵しやく一いっ級きゅうななるるこの

五月ご去き正月しちげつかかののええ祢ねのの朔しやくままららききつつこ
多たらら百ひゃく寮りやう朔しやく降ふり朔しやくははののととれれううのの日ひ言いひ
市いち皇かう子しよりり下くだははるる小せう綿めんよりり上あり
このこの大だい丈じやう等とうよよ衣い袴はかまひひおおいい腰こし
市いちああゆゆいいををよよむむ机き枝えだととたたままふふゆゆ

せせううううんん三さん階かい〜〜いいとと〜〜ききつつききた
ああ〜〜ももいいののええいいのの日ひ小せう綿めんよ
上かみははるるこのこのままららきき〜〜ららふふ白しろはは
ののたた〜〜ををのの〜〜若わかああるるききののえ
〜〜のの日ひ〜〜百ひゃく寮りやう 物もの位ゐよりり上あは
るる薪きりぎりす〜〜てて中なかつらら楚そのの日ひ〜〜りり
朔しやく短たん〜〜〜〜はは〜〜〜〜ののあある
〜〜たた〜〜〜〜ののととれれううのの日ひ祢ねととり
〜〜西さい門もんのの庭にわりり射しやをを的てきよよいいああてて〜〜ら

人よ八福多きふしと云れありこの日
 天皇鴻文しづめたりたりまよしてこよ
 のあつりし終るのえ祢の口みこと
 のりしてぬままりくおよそ國司みまもり
 了まげ仁んいとハ歳肉うらつちくまとよひみちれ
 くるありとをいいてこのかかうれたい
 せんくわの垣より下の人証任よまをせ
 二月のえむかの翔翔洋うらのとの
 見の日えん船らの客きやくりあ祢一よま般た

ちききりりりり
 友に月ほらのえいぬの翔めとれ
 うおんの日の新田の陽神ひらいらせの
 大忌神おんとまらるやまぎの國くわ下そのの
 こりり鶴こたつ積この吉奉よあかあにに
 とてとちらるその冠かぶ海うみ石楠いすなの花はな
 ちりりこの日やまぎの玉たまああららみの
 ちりりちりりままままららけけ雌め鷄とりととららにに
雄

るわうとかのこれいの日みとあう
あはらるる流王徳長みさうらまらみさのあまこれあ
討つ戸との祝たちうとはやめて西の國あはして
あひへて東玉むつよとたふは外玉
の人ほつとんとあふよのい
むしーはのうやはこの子としく
よのやはこのあをハゆらせあ
これより下ありんく人らにりふ
りのたしらつさいせあらとは
林長

これあゆませはられとれい何の
日のみとりりみとのし
あまりくとうのこりふとく紀と
人あ所さ佐さ麻ま呂らあらもあ東あ國まりつ
しえまれもらその國のおりんく
とろをら
あ月ほちちくあ何の朔めのえむま
の日のりことり終りくうさのら
そりにもぶてたてまつらハ玉司み等ら

のたうせうしんとさくさめえいぬの日記
はあのみとりうほくもくにのうら
のおん百姓ふとねぬふとてい
うてふはうんととらとほくも
まうれとてふくとゆくと終るは
月さる南あ山あ細川あ山と禁てまひよ
草うう木とふことうれまう
つくと山登るとより禁るおのうら
がうらふらやさおそ六月口位り
栗

くまのみこやまひしてう薨うまも物あ於
と限まのひじりたち中比よあまひ
お雄うりて率みぬ天皇これあまき
めしてあおとらあが終るか
のうらのえとられあ車あ駕よあう
ほりうてああまふ入てりあうあ
まうあとめてめくあほあて内あ大あ紫
のうらめとめてあほりうあうあこの
よあほりうあこのあ文あ大あきあうあいてあうあも

使みかひをみ口くち方かたよよああららししててくくららしし
ああららししてて法ほふ神かみ祇ぎよよううけけいいももまままま法ほふ僧そう尼に
とと法ほふてて不ふととけけりりけけいいももまままま法ほふ僧そう尼に
ととああららししててここれれよよううけけいいももまままま法ほふ僧そう尼に
ここののふふももおおららんんけけいいももまままま法ほふ僧そう尼に
秋七月いいののととれれううのの朔しやくつつららののくくららしし
の日ひ御ご大だい丈ぢやうととよよいいつつららののいいととくく
いいつつらら小せう壽じゆととめめ路ろくくととををののくく
ししるるああららししてていいぬぬのの日ひ航かう尾びののまま

ららししててままららししててああららししててくくららしし
日ひ幸さうのの風ふう神かみ祇ぎいいららせせのの大だい忌い神かみ
ととままららししててここのの月げつむむくくららししててくくららしし
よりより卒そつぬぬけけいいののええららししててくくららしし
星せいああららししてて東とうりりおおららししててくくららしし
りりててははああららししててくくららしし
八月いいののええららししててくくららしし
親みこ王わうよようう下げははららししててくくららしし

此大吏とよむいぬみこころいぬみすちま

皇子 皇 内命 輝 尊

くちへいとたきふとおのくちへぬあ

食封

りかとのこの日みむけりてぬ

ほく口方より大解除せんらりん

物のまれくちり個別小四やつこはら

けいの馬一匹布一帯木の皮一張

しをこのりりやほこおのくち

一口麻皮一張躰一口カ子一口あ一口矢

一貝の一本子まへ毎戸一麻

たろくけのえ祢の日みこのりて

ぬくまきくこのけもほくおさむつみ

あうをほくくひり一等をのそけ

うけりふくくりつろハすて小

あはまもるあられさるもく

ふゆらせきくもてなるみされ

おハゆも例よけもこの日くふく小

みこのりして生なるけしこの

月大三傳貞上田子人君み

ぬ天皇さしめして大よるしこ
流る川のえさふのしらの功をりて内
小業のくくぬ海といふ海ふりて護行
あてのしりし大に備志上田近君
と

九月いんそこの朔あがりて
せもきのとれいの日みこしちきこ
まおよひしりつふ海と人制
ふはりのとるあき海ふいのとれ

うしにれ日はくの大宰三位左
王はありておたのくふしりさふ
つらぬえとれ日つうさくの人およ
いとるあきのくにの人をちのこ
まのし海ふおのしりなあり
いのえいぬの日神友海しりて海う
さし新掌のゆめよ國のしりてと
ぬ兼志ハすないらちおしりのくふや
まのしり次いたんもれ玉新沙の

んきらとまししてしりきたてゆ
者等
川るものところほりいあういあんを
送使
そいつるいあういあう平
京未ぬ福信
お紙はくふとくふこの月あ
青
せいと信平ありあういあう
檀人
まういあうのとれまはりの日未り
こしと
ちりささくふくふみこのうい
きものところいあういあう
せ
の日さういあういあうの園り
使

て金くくしあういあう
明経人
とこりいあういあうのいの日さういあう
り大使こりいあういあう副使
後親
せんあういあういあういあう
法家
いあういあういあういあう
新屋のたい
系未金楊りんとまししてさ系
糸未金楊りんとまししてさ系
これいあういあういあういあう
お新屋いあういあういあういあう
お新屋いあういあういあういあう
うちのいあういあういあういあう
内田苗

事^新しくしととてんたにはく
そし^新てくとくふあれぬは井ふ
おはく^新れをも

式本下^{是年}りことう 山下^心とま

ま^りに^は十一月上

六年去正月きのえ給の朔かのえ
川の日^射さるみのこ^物と^射るる人をも
二月さ^射らのとれえの朔^物の^射の^射ら^射る
一麻呂新^物孫^射り^射る^射るこの月^射多^射給^射

侍の人等^{つごの}り^{つごの}花寺^{つごの}の西^{つごの}の榎^{つごの}の下

ふとあ^養人^養たまふ

二月^養の^養れ^養の^養朔^養かの^養との^養え^養の日^養
あ^養ふ^養の^養ほ^養い^養清^養平^養を^養ま^養い^養つ^養下^養
中^養ら^養う^養と^養十^養三^養人^養を^養系^養り^養め^養も^養

夏^養に^養月^養さ^養何^養の^養え^養每^養何^養の^養朔^養さ^養何^養の^養え

こ^養の^養日^養む^養ら^養の^養ふ^養ん^養じ^養と^養あ^養く^養

養^{村田史}の^養序^養は^養ふ^養より^養て^養い^養は^養の^養終^養ふ

ら^養ら^養は^養き^養の^養と^養れ^養え^養の^養日^養と^養く^養つ^養ふ

ちんる等下はくふまめ
たま
ふまれもちたり
ふら
ふら

六月三日のいぬの朔（中）一勢

きのえ祢の日大博士（百）人そ何

たんよふとゆりてあいでんけ

のく位あるとさ何あ法して二十戸小

社もこの日やまるとまゑりさとり

は小山下位とさうけをれとら

二十戸社もつらのえあ何の日

新死人（あ）所冷朴刺破徒人之口倍之

人血麻（ち）物了たつらちのちのと

れう一の口みことのりたまりく

あほ何や一海くふつや一海の神

税ハ（り）二よふて一をほ祢よほつじま

何二とハ（れ）へまふららたきこ

此月いつりも京をよひ畿内よあ

まこいも

六月三日のえく何の朔きのとれみの

日大よま長初まこの月まのまりまのまあまの
あまいま等まいまことまのまりまてまり
まりまりま女ま等まがまやまりまとまよりませまり
不可まことまいまおまっませまりまことまいまおまてま小ま等ま
田まのま世まよりま近ま紅まのまみまりまとまふまりまるまままて
はまひまりま女ま等まとまこまらまふまとまりまてま等ま
とまもま今ま暇まりませまりまあまりまあま女ま等まりま
りまあまりまとませまめまてまおまりまれま
ままふまりまつまいまもまりまあまれまとまいま

きまほまりまふまあまのまあまのま氏まとまたまや
とまんまとまおまりまをま放ま大ま思まとまくまりま
てまもまてまいまりまあまいまきまりまいまりまいまりま
あまりまあまりまとまりまとまいまりまあまりまさまりま
あまりまいまりまいまりまあまりまいまりまあまりま
秋七月あまとまれまりまのま朔まのま何まのまとまれまい
の日ま新ま田まのま風ま神まいまりませまのまちま志まの
神まとまままりまるま

八月あまとまれまりまのま朔まのまとまれまこのま日ま大まよ

花鳥も一かづみ後東と一切みまの経とよめるゆ
ふそれらち天皇尊の菊門よおハ
一三度ききてふとけといやきいひま
ぬこの時のみこ親王みこ徳王とよいま
ちきこころう人いってにお家一人をた
まふそのお家おとこめのこいも男女おとこ也却といこは
みる祢いひのまにいって度いってもふてして大
をみみよき舎いのとれえ乃日金清平
玉みふくもれもらいかひ器つさ

朴刺破かお瓜か清平等うらけよ付くふて本くふ去くふよは
ういはいはいらいのいえいまいのい日い能い屋いらいりい五
子い却い死いといきいていういはいさいあいていは
いいふい
九月かいのいえいらいのい朔いはいらいれいといれいらい
のい日いみいといれいらいていれいらい海いこいくいに
よいほい浪い人いといはいそれい本い去いりいをいくれ
らいとい中いしいらいういらいいいはいまいれいらいれ
といあいもいあいらいいい裸い役いおいふいせいよ

冬十月のえりの朔は川原とのう
の日内小弥上か川原のよん川原百姓と氏
那那つづきのとるつづきの肉大弥下丹比公麻呂と
持は職大夫とるす

十一月にられとれむらこころ乃初あふり
て昔朔せもつらこころの左幸赤鳥と
つてこころすれとらみ奉府の役
司人こころたすおののあおのの
差あおのはおのよ赤鳥とねる者

そのころり
りり本級たきもれとら幸
の初司ふり爵位をきり給て
那内も百姓りつきゆたきふ
と一とせこの日天下ふ大りほみゆ
さふつちれとれうの日新ふ年いき
めもかのとれえの日つりさ百徳を後
ふ小食たきとれとのうりの日新年
いよつりさりく神友をふい新年
ふよい禄いさい

十二月ほられとのうー乃朝名あり
て告^う朔^しせも

七の美正月ほらのえむまの朝^うきのの

えいぬの^う南門^くの村^うを^うつられとの

うの^え日^く能^く羅^くの人^く系^くの^く海^くづ^くの^くま

天^く祚^く地^く祇^くを^くす^くの^くら^くんと^くお^くる^くて^く天^く下

こ^くと^くく^くに^くこ^くく^くて^く東^く交^くと^くく

そ^くの^くう^くよ^くて^くは^く

夜^く四^く月^くい^くの^くと^くれ^くい^くの^く朝^く東^く交^くに^くい^くて^く海

さ^くん^くに^く不^くて^くト^くも^くう^くの^くと^くれ^くの

日^くに^くあ^くく^くて^く平^く旦^く時^くと^くり

て^く發^く譯^くも^くて^くよ^くゆ^くら^くさ^くぬ^く百^く寮^く列^くと

る^く一^く寮^く余^く蓋^くい^くま^く一^くか^く行^く小^くを^くよ

と^くに^く十^く市^く皇^く女^くた^くら^くち^くふ^くや^くし^くい^くお^くこ

り^くて^くま^く乃^く中^くに^く葬^くま^くす^くこ^くれ^くよ^くて

自^く簿^くも^くて^くふ^くさ^くり^くて^くえ^くお^くま^く

つ^く井^くよ^く祚^く紙^くと^くす^くの^くま^くを^くた^くま^くし^くに^くほ^くち

のと^くれ^くい^くの^く日^く新^く宮^くの^くみ^くれ^くり^くと

庭

ふさにあつては法及りしとくれを
あらし法及のん久さうめて大辨おんらの
官し中をくれ志う海よおる登け
奉ふしうておほく人日それ得し
のやまいとよひ重服しあつてもて
それらちいさうことにしりて辨これわ
もの階しなとよくし例あよし
十二月にわれとれししれ初はら
のとれうの日あ贖あ子あ考あ天あと繫あてい

ほしうり東水ふといらこの月
ほしれ國大し地動て地さくは
こといろさ二丈長三千餘丈おん
いりの舎屋村やうすに多こしあれ
やあるこの時し百姓の一家屋上し
し地動あ夕あふあし川て星く川まで
りて知らわれし家まで
ふしししてやあしとれし家
人星のく川まで家の避あしと張あしを

今明のちらにさうて

おとくにたおと海ありこしー新羅

の送使奈未加良井山奈未金紅世

はくしふいしうて海さく新羅

王きうくんくん消勿大奈未金世等

をきしうて當年のさ川夷をこ

て中らるよとて長井山と中しうて

消勿亦成をさしうてむとさ小暴風

よ海才にあしうて消勿等みる

あしけて始新とさくをぬしー井

山とけく小岩よはくことえさうさ

ろ小消勿小は井ふさうて候

八年表正月さ川のえむまの細いの

いぬの日新死のをさうけうい加良井山

金紅世等奈未くさうけうつちね祿の

日みことけうしうて海さくおよそ

正月のさしうあしうて徳王すらきみ

しうらとよいしうさくしうらめしう上

百寮系

つゝ親をいひをのりこのうみを除か
てこの外しるおろそそ氏徳王と母と
いふとみこのりひよあもはなを
久みそ徳長姓いさゝ早母いさゝをるおろそそ
三月の徳よあもといふもは
これよるそ〜い〜あはる
れふ〜はみる〜んつられとれいの
日ふ西門のりうのころくも
二月の川のえ称の翔る藤のり上の

大相の桓の欠の下の於の大相所のもろふを
〜して〜あたてはりる〜新
孫の〜系の末の取の勿の那のをほ〜てく
〜んの〜んのホのをほ〜に〜とくほ
〜のえ〜れの記の長の聖の麻の呂のみの申のり
ぬの川のえさるれ幸のり〜と
大の御の上の位のを賜の〜ほ〜きのとれのの
日のみ〜とれ〜あの〜まの〜かの
とのみの〜よ及のま〜親の王の徳の長のをい

つらいつの人の兵とていふと
かんく坂あつしめそりよこの月大忠さかひ
とていふてまらしきよめとめくみて
めてせのいひくうへるものよ物
とまら

三月のつとれえの羽むのえいぬの日兵
米大命りかみをのまみ死みうせぬれんのえさる
れつのええらにあつて先さ津さ
とてせののいとやうぬこのい
後田

りりふりて外小津上のくつめをといて嬌
たまふいのとのいの日天皇とら誠智い
て中ののられは墨平ののまらみと
のえさるを降られの
一乃日古備みら石川王のやま
い一てさとの困りみうせまも天皇
さうめておほさふあいはま
あそら大忠とくさと諸
王二位と贈しめふくのえさる

まづしは借尻しりりわめのお
くらたまふ

夏四月のつれいの朔しつのつれうの日
みことのつりてははるく備有食付
その所中をわそくて加まゆるはは
しやむとれとハ登めんこの日てり
の志をささめ給はちのつれいけ
の日廣瀬もつりの社と傳へる
五月かのえしりの朔のえさるの日

しはまのい下海もつれのとれ
うれ日天皇きつとれとよい茶ちや礎い
皇子えと大津皇子宮市皇子
り川海の皇子を久く見みここ芝し基き皇
子みとれをてははるく
朕今日けふいいししころとたふふ庭によちらを
りてらとせのむら奉りあつんとおも
不ふままいいんん皇子宮をももににええててれ
とほくくとりり物い然ちるちとすれ

しらの 茶登皇子の みしし先せんて
盟し の 備し 天祚地祇をすい
天皇あはれ^院めたりと のれ先中
に^知なる^知に^知なる^知いよ^昔十^昔の^昔なりれ王
おの^のと^と腹^腹より^{より}お^おり^り志^志くれとも
に^に時^時一^一矣^矣を^をさ^さり^りも^もと^とも^もに^に天^天皇^皇の
見^見こと^{こと}れ^れり^りの^のま^まふ^ふく^くあ^あいた^{いた}も^もけ
て^てさ^さり^りる^ること^{こと}な^なら^らん^んし^し今^今は^はり
ゆ^ゆく^くあ^あず^ずこの^{この}盟^盟の^のこ^こと^とく^くな^なら^らも^もと^と

み^みの^のり^りい^いて^て子^子孫^孫一^一人^人も^もす^すれ
ど^どあ^あや^やま^まし^しと^とれ^れす^すま^まふ^ふみ^みり^り
らの^{らの}皇^皇子^子次^次の^のま^まに^にあ^あひ^ひら^らき^きり^り孫^孫
し^しと^とさ^さの^のこ^こと^とま^まり^りて^てれ^れら
天^天皇^皇れ^れゆ^ゆく^く朕^朕男^男等^等お^おの^の矣^矣
朕^朕ふ^ふり^りめ^めり^りま^まれ^れも^もい^いま^ま一^一母^母同^同産^産
の^のこ^こと^とに^にめ^めぐ^ぐせん^{せん}も^もれ^れら^ら襟^襟とい^い
死^死ま^まか^かの^のこ^こと^とら^らの^の皇^皇子^子と^とい^いま^ま
た^たま^まり^りて^て盟^盟て^てれ^れ備^備し^しも^も

このちきりにあつらひたるに
に暇が身とちきりゆきんとのしほふ
名のちきり結ふとほつ天皇のし
いぬの車駕あつらひ
きほふはちのしほつ
らちみこととふ天皇と大倣よの氣ふ
おろし結
六月あつらひぬの朔あつらふはちおほ
こ桃子のしほつみゆのえらちのしほ
つ

こいもきのしほついの日大御上天
杜しほ登のしほつしほ率しほぬ
社七月つらのとれつれ朔しほのしほ
の日雲もつらつらえしの日廣津
新田社とつらつらえしの日廣津
の日しほつらのとれつれ朔しほのしほ
八月つらのとれつれ朔しほのしほ
してつらつらえしの日廣津
つらつらえしの日廣津

泊瀬よいてまゝで遠鷺淵上りり
とのあつりし給これよりまたよ玉御
しみことめをりて給し満ちく衆
馬の外よすし細る満りあてめえ
まふく初まさとまねら泊瀬より
まふく給ふ日まらきえしその
まけし細るとみそあしりて
迹えの歌家の通頭しみるもせは
め給かのくじまの日償らやけと思勝

嘉永とくてもらる歌
おるしうのれしうの日大宅王
薨れし
九月はらけえしうの朔しうのとの
えの日あつふりまらし使入ホ
あつて朔とおくじかのえ祢の日ち衆
しあつし使入能死しあつし
し使入ホくつてしあつし朔庭をた
む

冬十月つらのえさる此朔つらのとの
とりの日みことのやししそはほく
暖このころあつくあつきの日こと暴こと怒こと者こと多ことはこと巷こと里こと了こと
とつらこれをもれしちおほきみしそら
ホのあやまらさうりあつひいあやまらさうりの美あやまらさうりの怒あやまらさうりの者あやまらさうりのさ
まてしころりりりして志のいてめん
ぐもあつひいし怒あやまらさうりの人と見ておこつ
てくくしてしてあつひいれんれん
まふくこれとつさハあふあつくあ

しんとつらんやこつあつて今より
ゆくりあつりりりおこつることを
して上と下のあやまらしとせめ下ハ
上の暴あやまらしたといさめしとせめらあやまらした困あやまらしたぶあやまらしたに
さゆんつらのえむまの日あやまらした比あやまらした震あやまらした
のえさらの日みことのりりり幸あやまらした満あやまらしたる
僧あやまらした尼あやまらした等の威あやまらした儀あやまらしたとよあやまらしたいあやまらしたはあやまらした服あやまらしたの色あやまらしたを
ひりあやまらした馬あやまらした提あやまらした者あやまらした巷あやまらした閣あやまらした了あやまらしたかあやまらしたふあやまらしたつら
と制あやまらしたするあやまらしたふあやまらしたまあやまらしたのえあやまらした祿あやまらしたの日あやまらした新あやまらした羅あやまらしたより

河喰金頂那ハカ河喰ハカ薩菜ササをこ

してハカ河喰ハカをこ

金銀キンギン福フクりリのノ鼎テイのノうウまマ

馬ウマいイぬヌ驛イキらラくクのノあアくクいイ十ジュウ余ヨ程テイまマ

とト別ワケしてシテまマつツりリのノ天テン皇ウまマさサえエんン太タイ

まマふフとトのノ志シらラるルのノおオのノくク投ナゲめメりリ

この月ツキみミとトぬヌるルのノまマるル

およそオヨソ徳トク信シン尼ニ者モノつツひヒのノ内ウチりリ

とトくクてテ之ノ瘡ソウとトほホりリれレ志シれレとト

あアらラいイのノ老ラウあアらラいイのノやヤまマいイしシてテそソれレ

いイとトぬヌるルはハ陟シツ房フウりリあアりリてテいイとト

くク老ラウやヤまマいイしシるルはハ進シン止ジもモ

やヤくクるルをヲ淨ジヨウ地チとトもモらラれレんンとト

とトもモしシ今イマよりヨリゆユくクさサさサおオのノくク歌ウタ鉄テツ

とトよヨびビあアらラくクほホとトあアらラるルのノよヨはハ

さてサテ一イチ二ニ乃ノ金キン屋ヤをヲ用ヨウ知チしシてテ

老ラウしシるル老ラウのノ身ミ張シヤウ局キョクしシるルいイやヤまマいイ

あつものち茶をくく
十一月いのとれうしこれ初めのえう
れ日代震つらののとれいの日大し下中ま
と馬飼奴やほに連^つ取おゆつひとる
し小し下上寸主先欠と小使^{さつ}とる
て多^ま級^{じゅう}鴻^{こう}し^しゆ^ゆもよそく^くり^り二^に級^{じゅう}
たきふこれ月うめて周^{しゅう}取^と新^{しん}田^{でん}山^{さん}
大^{おほ}に^ひふと^ふう^うふ^ふそ^そ登^{のぼ}皮^ひり^り尾^び城^{じやう}と
はく

十二月いのとれいつしこの初つらのえ
さらの日嘉^{みや}来^{らい}ふ^ふし^し何^{なに}て^て親^{おや}王^{わう}流^{りゅう}主^{しゅ}流^{りゅう}長^{ちやう}
とよいつらさく人等^{ひとら}よた^よた^たの^のい
はふたのく^ま差^さあり^り大^{おほ}碎^{さい}飛^ひり^りト
はくことく^くゆ^ゆつ^つら^らし^しの^の
困^い伴^{ばん}の^のこ^こり^りし^しを^を芝^{しば}草^{そう}と^とあ^あて^てま^まら
る^るぎ^ぎれ^れし^しつ^つら^ら菌^{きん}よ^よに^につ^つら^ら芝^{しば}の^の毛^{もう}一^{いっ}人^{にん}
その蓋^い二^に困^{くわん}ま^まし^しら^らる^ると^とれ^れ玉^{たま}より^{より}瑞^{ずい}編^{へん}
あては^はり^りる^る芝^{しば}し^しに^に枝^{えだ}あり^り

九年壬午正月のいとれうりの朝ま
のえさるれ日天皇向小坂をり
して王御よ大坂の庭よとよのあ
くりさきふこの日忌部首かうつら
とたういてひりといふまねら
赤色糸ともふらこい洋のいと
のえの日親王より下はこ小建よ
きらきて南門射をいのえさる
れ日侍のまよりあさるく法田の村ふ

桃李実るると
二月いのえむきの朝のいとれの
日鼓のいとれいとくして東のふ
きこるかのいとれいけりれ日人あてい
魚しく鱗角をうらさよよえさる
角本そ二まきして末合て完あ
り完のよ小毛あり毛の長一寸それハ
らりやしてりてたてあけり
隣いの角さるのえさる日新

尾の仕丁八人が去りしに、
あれて、
三月いのみねの朔、
はのまより白巫多と、
ちのえいぬの、
と

夏に月三日のとれ、
日廣瀬、
のうの、
て十房を、
ふのは、
あき、
若あ、
くたよ、
ちち、
は、
封あ、
ら

て十房をやくつられとれ、
ふのは、
あき、
若あ、
くたよ、
ちち、
は、
封あ、
ら

とれうしーの日せうきんちうりふの星川臣
麻呂率みまがぬさ川のえさるれうの
いー功りう率とめて大紫後をいいて賜ふまふ
六月きのくぬ川の翔つちのえさるの
日新瓦のまう著うとむる順那等むより
へらかのとれいの日い灰いあいのとれこの
日雷い電らもらとむるり
秋七月きのえいぬの翔むるるの西み
れ概つ校このきのえとのりうりおてあ

たつられえとれ日天皇いぬいの大むさむし
ト大とら家よいてまてやまい
しはもれしらみめくみくし
終とうここの日あはらいもかのとれ
えの日いろせらうこの終はまらる
えいのとれいつしの日あまみるこ
れんつとにありかのえされ日えのあのの朴た井
連子麻呂り小辨下の位とさらけし
まふのとれみの日飛鳥寺ののしらち

や^むらう^りも^らん^ん 終^つも^ら 大^お伴^と皇^み子^こ 御^ごけ^ら
のみ^みこ^こを^を御^ごけ^らして^して^てさ^さら^らり^りめ^め終^つ
いの^いの^のえ^えさ^さら^ら乃^の日^ひ小^こ孫^そ下^げ之^の宅^{たく}の^のむ^む
石^い床^{とこ}卒^{そと}ぬ^ぬえ^え川^{がわ}の^のく^くら^らの^のと^との^のい^いさ
を^をふ^ふよ^より^りて^て大^お綿^{わた}下^げの^のく^くら^らめ^めを^をた
御^ごけ^らの^のえ^えい^いぬ^ぬの^の日^ひ納^{のり}を^を兼^{かね}ら^らや^やの
明^あら^らの^の御^ご女^め位^い舎^{しや}人^{ひと}王^{わう}や^やま^まい^いして^{して}
死^しる^るん^んと^とも^もす^すれ^れら^らち^ち市^し皇^み子^こを^を
ま^まり^りて^てさ^さら^らり^りめ^め終^つ明^{めい}日^{にち}み

ま^まり^りぬ^ぬ天^{てん}皇^みお^お御^ごさ^さり^りお^おと^とう^うよ^よ
ま^まり^りて^てを^を御^ごけ^らら^らち^ち市^し皇^み子^こ川^{がわ}
皇^み子^こを^を御^ごけ^らして^{して}孫^その^のを^を御^ごけ^らめ
哭^なひ^ひ終^つ百^{ひゃく}察^{さつ}者^{しや}み^みと^として^{して}終^つつ
八月^{はつげつ}え^え川^{がわ}の^のと^との^のう^うれ^れ相^あい^いの^のと^とれ^れい^いけ^け
一^{いっ}の^の日^ひ法^{ほふ}官^{くわん}人^{ひと}を^を御^ごけ^らして^{して}ま^まり^りぬ^ぬこ^こ
日^ひは^はり^りめ^めて^て三^{さん}日^{にち}あ^あら^らう^う大^おあ^あい^いの^のあ^あ
川^{がわ}の^の日^ひ大^おあ^あら^らう^う木^き坂^{さか}あ^あり^り登^{のぼ}り^りて^てま^まり^りぬ^ぬ

九月三日のとれりの初めとれこの日
却婦あまつよといはれしはもとて大山おほやまに下は
しこの馬と長柄ちやうへ杖つゑりみ終はつをれり
馬的射むまゆいりしめ終はつさのとれいつし
日地震ひくわつられとれいの日業内王ひくわちのりし
の家いへに率ひらぬ

冬十月三日のえとの初はつさのとれみ
の日京みやこのうらてりくのあつしき倍
尾おとしい百姓ひやくしやうをめぐみてにさくを

ゆのもの一倍尾おに冬ふゆをぬのぬのは
鯨くじらに屯とんぬの六むひひ沙さ糸いとをよひゆ白衣はく
よいとよのくくふとふぬの二足ふたあし綿わた二屯ふたとん布ぬい
羅帯らた

十一月三日のえとの初はつ日能ひのちりしこの
えいぬのえいぬの時ときより初はつの時ときふし
すて東方とうほうありしとのれいの日言ひのち案あん
人十九人くに本もと去さりしはのちれ居いを
天皇てんわう乃喪みせよありてさくひつし

とありていまこころをなほのるり
つちあへしれ日百友ふみことあり
てのいほしきりあめののりふ利あ
らしめ百姓とせしるふもろ淋あば
綱いほちでしきりうほりせをれを
ちしとこしとこころふくふハまき法
則とせんかのとれこの日西の方
んとれもるつのとれいつり日皇右
うやまひし終もるるら皇右れ

め小誓^{こいちひ}就てしめ高^{やく}茶師寺とて
一百万と度^{たて}せしめ終^はくはよ
てあしと終^はくはえのるこの日
はこゆりし終いのとれこの日月^ひ終^はく
草^{くさ}皇^み子^ことま^ましとて^まあ^ありし
のやまいとま^まし^しの終^はく^く明日^あえ^えめ
か^かり^りし^し終^はく^くま^まら^らし^しら
の皇^み子^ことま^まし^しの終^はく^くり^りめ^め終^は
まの^まとれ^れひ^ひり^りの^の日^ひとま^まし^しら^らい^い

食えん金やぐひの大夫末金原井と
備いてみりきたて申付るも礼とち
習言者三人君彌よふとて備いて備いり
いのとれとて日天皇やまひと結むすぶ
て二百倍と度たいせさをもふとて
いいぬかのとれとて日贈あふと天と
くくして東南くわんとていぬいよ
わわつる

十年壬午正月のといはしと此朝と

川のつららの日幣ひ幣ひと法祚紙ほあり
備いて結むすぶ乃とれとて日百寮ひ法ほ人
みくとおがな法ほのといはしと日天皇
向小殿むりたて備いてごよのあり
結むすぶこの日親王み法ほとハ内の安殿あと
引入ひはちきふありとハれ外の安殿あと
もつてとて小酒おめとてを備いり
ううさいもすれとて大山お上か草く香か花は
吉き志し大たい秋あり小錦こ下げのくつのとさつづけ

終よてかりひとたずいて後波連と
りかのとのみの日十一のひり
ふころとのりて六十戸と封もよて
りて絶三十尺^{かたさぬ}綿百五十斤^{いり}ぬの二百
十端^{たもと}三百口^{たもと}ぬあすふいのとれいの日記^{みこ}
より下はしこ小建より上はしこ^{みきと}期^き延
ふり^射とるへをつられとれりの日^{うらつ}歳
肉と^たふい^た徳^た國^たよみとのりて天^{てん}社
地社^ち社^しまとおさし
修理

二月のの^の祢^ねの朔^{しやく}三^{さん}の^の祢^ねの日^{にち}天皇^{てんかう}三
さ^{さん}比^ひみ^みも^もふ^ふ大^{だい}極^{ごく}殿^{でん}よ^よお^おり^りし^しゆ^ゆと^と親^{おん}王^{おう}
徳^{とく}王^{おう}と^とよ^よい^い徳^{とく}長^{ちやう}と^とめ^めり^りて^てえ^えこと^{こと}け^け
し^して^ての^のし^しゆ^ゆと^とめ^めい^いま^ま更^{さら}よ^よけ^けの^のふ
み^みと^とさ^さこ^こめ^めて^て法^{ほふ}式^{しき}と^とあ^あり^りめ^めん^んと^とお
り^り及^{およ}も^もに^にこ^この^のし^しゆ^ゆと^とめ^めた^たさ^さめ^めよ^よま^まれ
と^とし^しふ^ふと^とり^りに^にこ^この^の勢^{せい}と^とる^るハ^ハ公^{こう}事^じか^か
こと^{こと}あ^あり^りん^ん人^{にん}と^とふ^ふて^てお^おこ^こる^るへ^へり^りこの
日^{にち}草^{そう}壁^{へき}皇^{かう}子^しと^とり^りて^て皇^{かう}太^{たい}ふ^ふと

那ー始ふよてしとく百のまらりことと
ふやこのおこめーめ始つられえぬ川の日
あくのそと
所色史人荒すをつちとれ足の日せう小宗
く々の尚いさよのさよこよこま麻公豊源荒

三月々のえむまの朔三川のとれさうの
日所信史人をもさうらにのいぬの日天皇
大あんとのよにゆも川鴉の皇子
とくくの皇子いらせのみこ竹田王衆
田王みみのえこ大錦下みつけの君三み

千ちせうせうらんらう忘れむー首くせう
ううけんけん下下河か景けい連れんいいるるささるるふふこのむ
トト大大せんせんやや申しん居いむ
大大一一両りやう大大山さん下げ平へい祥しやう居い子こりりふふみみこ
れりーててままつつさされれふふみみととよよむむ上じやう右う
の徳とく奉ほうともとも志し々々けけ一一先せん志しめめ終しゆうふふ大
しゆしゆ子し首しゆららりり筆ひつとと似にててこれこれと
ままととののええととれれ日にち地ち表ひょうききののえ
むむままのの日にち天てん皇わう新しん宮みやうのの井い上じやうよよおおりりゆ

してては海を小鼓吹のこえと發し
ほふよりて酒割りじ
四月はられれとれいの期々のえ社の日いろ
淡多らこれ社とほらふかのとれ
の日禁式九十二条とありてこれ
とみとれをしての酒と親五
より下はりて庶民よりするまこと
り後の服用ゆる下の金浪珠おむ
たにふりきぬいとの後とよいおむら
籠

もこのに冠帯するいふくさ
新色のぬい服りらゆらことおの
若あまことむつさりみことれ
書りあるかのいぬの日弾織のこ
はこをうて一田井ありて麻呂ま
これ念人むく多り石勝りらの
りり一をいふのこやめつるあ
能麻呂お白こ酒の道百枝あは
やまこれ並結戸呂つとあとい大治
門
並

完人^いや^ははこ^おめ^や山^背海^のこ^はの
鳥^い賊^かま^らる^あい^よ十^四人^一く^りの^と
た^らい^てひ^りと^りふ^まの^との^うの
日^ち香^の客^{きやく}^知同^同人^ふよ^はは^きふ
饗^たま^しる^あは^らの^をは^ふこ^と志
な^り

六月つらのとれん^の朝つちれ^の
の^日皇^祖の^魂と^すつ^ら経^この^日み^こ
た^らし^ての^あは^らお^よそ^百察^つ

法人^ふ人^とい^やは^らぶ^とる^て甚^る
あ^らい^いの^門し^りて^こら^松と^あ
け^らふ^あい^ハ華^とと^して^り
の^あよ^婿も^今よ^うゆ^こら^し
か^くれ^とあ^らは^華れ^まあ^くと^ふ
ほ^ふる^りん^さの^入祓^の日^香藤^の知^知
同^く

六月つられとれい^の朝^つち^れの^とれ^うの
日^新羅^の客^{きやく}^知同^同人^ふよ^はは^きふ
に

饗^{いあ}たまりりるあほりのたまふことおのこ
しるあうきのとれうの日^{あま}雪^こともう
のえいぬの日地震

秋七月はられえうの朔^あありき^{せきめ}崔

えひかのとれいつの日小錦^ま下^まの

め^めのそん竹^{つら}舞と大使^ありあいまのこ

み楠とそいつい^いて新羅國^あよき

まこの日セ^ハキ^ホん^ホケ^ホス^ホキ^ホのむ^ホり

是と大使^あり^あ中^あ羅^あ國^あ麻^あ呂^あと小^あ使^あ

て高^あ秦^あ國^あり^ああ^あい^あの^あと^あれ^あ

これ日^あ度^あ漸^あ一^あ張^あ田^あこの^あ神^あと^あま^あつ^あら

いのとれう^あれ^あ日^あ天^あ下^あり^ああ^あい^あと^あま^あ

ことく^あく^あ大^あく^あセ^あら^あむ^あこの^あ時^あふ

あ^あい^あて^ああ^あ送^あ等^あお^あの^あと^あら^あつ^あの

奴^あ婢^あい^あと^あと^あお^あて^あ解^あ除^あを^あ同^あ七^あ月^あつ

ち^あの^あい^あぬ^あの^あ朔^あう^ああ^あの^あ日^あき^あて^あん

哲^あ教^あ一^あ統^あて^あ大^あり^あた^あみ^あ一^あ終^あと^あ京^あ

内^あの^あて^あり^あふ^あら^あし^あむ

伝^あ存^あ

八月いのとれうの朔いのとれうーれ日
 大御下上毛野志みらうへん御うりぬ
 いのへ祢の日三の律三くくの法人下
 みとれをししてれうへん御うりぬ
 ゆうー終ふ十年の酒税とてふおと
 しぬ御うりぬとれうへん御うりぬ
 むく御年多とてふ御うりぬ子孫うみのこはる
 らいりおとせつ保ふこととてくを
 よゆうも御勢保とて白茅い鶏ととては

ほふいのでいぬの日たゆー御うりぬ
 せう使ら人ふ多祢の國の景多とてまら
 らかのふ京京とてふ御うりぬ
 ーれ南の御中中にまら御うりぬ
 せう御福つとふ御うりぬ
 まいてあたまくいぬとて御うりぬ
 むとていぬとて御うりぬ
 れ日善とていぬとて御うりぬ
 九月いのとれうれ朔はちのとれいの

口高藤志くまにほくくく使入ホと
もにほくくくくて胡みこをかくむかのとれ
うーれ日をもくくれ玉よりあめあめを
あてほりるをれくち清字のいけふ
さるくくくこのくく川の日みとれ
ーてれくくほくくおよそ徳氏この地
みいゆーくくくほくくぬことくくハおの
をの氏上とくくめておむくつさ理官りやと
くれくのえいぬの日多祢鴻の人等く

飛鳥寺の西河の不きくくふみあへ
たきくくくくの業うまひを奏もくく
のえ祢の口くくくりーえむくくのとれ
うーれ日あめ寒むす月づきふ入
冬十月いのくくくの朔日いづくくく
のとれいほくくの日あめ震ふるきのとのとれ
日新あたら元もとくくく一吉きち冷ひやくくくへい大
系な末すえ金かねいりせいとゆくくく
さあてほりるこくくくくく祢あ

かね織かりこの片三縮きぬちの皮細布かひこの多
くいおのく救あり別に天皇みかどに
死しひ川がはのみにみこふ金張かねぢのさあそ
極たぎのふくいとて海つるおのく
救ありのえとれ日みとれうして
のいほく大山位おほやまゐより下くだはく小夷
より上かみはくこの人等おのくくろく
へとああせこの月天皇つきみかど廣ひろ津つ野の下くだ
菴あま一ひとたまりんとおろしてくろく
行ゆき

はくくたたくく懐米なつかいもてよそるふ志
くまとし車くるま駕がはめよいて海うみをもと
一ひと親王おきなより下くだはくをよひ群ぐん卿けい
これこれ恒布とこふふく入りて懐米なつかいくさうむまを
かんかんく小綿こわたより上かみはくこの大吏おほしはこれ
柑かんの下したよはくく大山位おほやまゐより下
はみなるく系けいてとも大海おほうみのまふ
南みなみよりふよく新死あらたにのほいゆ下
告つてああくくく國王こくわう堯じょうぬと

十一月いのりたるれ初いのとれうの
日地震

十二月三のとれう一の初三のいぬの日
小綿下河色臣こ綿下とほくには

して新屋のまらうと志平ふ答
たまりむい川のとれえの田中臣

うらかきれもとのとん後あう人の

むい系圓想う向臣まらうありこのとん
真人まことのりのり一戸呂申臣の

むい大いそよの両曾孫連いぬあんの

りい智徳ちとくあませて一十人せうきん
けのくぬと授するふこの日金人い

や通法と糍毛あんのあいに智徳ふりひのと
たういてむいとつふ

十一の春正月三のとれい侍一の初
川のとのりれ日大山今人連糍毛に

小綿下位と授さまらきのとれいの
日金志平えんちへいよほくにいぬ答とほふい

のえ祿の日氷上丈人^{いのふのかみ}家の申小薨^{ことう}も
うけのとれう^いこれ日比^ひ初^{はつ}かのとれう
の日氷上丈人^{いのふのかみ}とあつ^{あつ}る^るよ^よし^しら^らう
二月きのえ祿の初^{はつ}きのとのいの日^ひ、^金ん
ら^らへい^{へい}國^{こく}よう^{よう}く^くこの月小^こ俸^{ほう}下^げ金^{かね}人^{にん}
連^{れん}ぬ^ぬう^う率^{りつ}ぬ^ぬう^うのえ^えま^まら^られ^れう
の功^{こう}を^をり^りて^て大^{だい}俸^{ほう}上^{じやう}の^のく^くら^らめ^めと^と賜^{たま}は^はる
ふ

三月きのえむきの初^{はつ}小^こ紫^{むら}のれ^れみ^みこ

とよい^{とよい}ま^ま内^{うち}の^のつ^つら^らさ^され^れ大^{だい}丈^{ぢやう}等^{とう}了^{りやう}
み^み年^{ねん}と^とめ^めう^うして^{して}新^{しん}城^{じやう}よ^よま^まし^して^て
その^{その}地^ちの^の取^とり^りと^とえ^え務^むし^して^て新^{しん}城^{じやう}よ^よま^まし^して^て
く^くし^しんと^と次^{つぎ}に^にの^のと^とれ^れい^いけ^けの^の日^ひみ^みら
の^の玉^{たま}れ^れ蠟^{ろう}燭^{じやく}二十^{じゅう}二^に人^{にん}く^くし^し位^ゐを^をさ^さす^す
この^{この}え^え祿^{りやく}の^の日^ひ地^ち震^{しん}ひ^ひれ^れえ^えむ^むきの^の日^ひ境^{きやう}初^{はつ}
ひ^ひら^らい^いつ^つみ^みら^らに^に命^{めい}し^して^てこ^こに^に
そ^そめて^て新^{しん}字^じ一^{いつ}紙^し四^し十^{じゅう}四^し卷^{くわん}と^とほ^ほく
ら^らし^しむ^むけ^けら^らの^のと^とれ^れう^うれ^れ日^ひ新^{しん}城^{じやう}了^{りやう}

小いぎをかのとれり此日みことあり
てれいほく親王より下はる百寮
法人いまいゆく此位りつとをい
ゆ一も御脛裳よせそま一胎妻衆女
等うたもさひれりいよるせそこの日
みことありてのいほく親王より
下はる一徳長ふりつるもそたまらり
食付これやめてすにおんやけり
く一もいふこの月公師りり

其敷率ぬこのえたるのいのり
りりともいて大弐上のくぬを贈た
ほふ
交四月このとれいの初かのとのいり
の日廣津新田の神とまらりこの
れいり一れ日はく一れら幸舟いま
人崎ホ大のひときてほりるきのえ
さるの日一れ帳夷いりり等
人七千とて一筋とるさんとほ

とすれらちこれとゆらとて一のとれ
とられ日みことけうしてけい満ちく今
よりゆくらぎ男女ことくく小髪あ
けよ

十二月二十日よりけまふ結おとれあ
し髪あくふ日ハまきく物方とつらう
たとやめのるよのうことほとらうとのこ
とたハまきこの日ふおくれり

六月三日のとれえの初きのたけの

やま^様とあやの直等姓^{あひら}となういて連
とけふはけらけへするの日高森はけ
し大^{おん}使^{おん}さきのむしといろく
そいつい^{おん}小^{おん}磐田^{おん}長^{おん}麻^{おん}と^{おん}う^{おん}い^{おん}の^{おん}い
かんとはけ新^{おん}してまらけら
とのいけりこれ日やまと漢直ホ男女あ
まのく満ちねとむきてうらむのいほい
しこととまらけい中て初おくみと
六月三日のえいぬの朝^{こまの}ち^{おん}森^{おん}王^{おん}ら^{おん}け^{おん}

ふよ有^ら卦^ふ妻^ら毛^らせ^ら川^らい^ら古^ら都^ら加^らと^ら海^ら
う^らて^ら方^ら物^らて^ら中^らり^らる^らも^られ^らも^ら新^ら
死^らより^ら大^らる^らみ^らこ^らん^らし^らや^らく^らさ^らと^らま^らし^ら
て^ら高^ら桑^らの^ら使^ら人^らと^らは^らく^らに^らと^らく^ら為^らい^ら
の^らと^られ^らう^ら此^ら日^ら男^ら女^らこ^らめ^らて^ら發^らあ^らけ^ら
と^らる^らも^らら^らう^らう^らわ^らり^らの^らう^らら^らと^らう^ら流^ら
う^ら川^らの^らと^らり^らう^ら此^ら日^ら女^ら佐^ら急^らう^らの^ら玉^らみ^ら
平^らり^らり^らぬ^ら
秋^ら七^ら月^らう^ら川^らの^らえ^らり^ら川^らの^ら新^らさ^らの^らえ^らむ^らま

の^ら日^ら集^ら人^ら多^らり^ら満^らり^らきて^ら方^ら物^らた^らて^らは^ら
け^らる^らこ^らの^ら日^ら大^らも^らみ^らの^ら集^ら人^らと^ら阿^ら多^らの^ら集^ら
人^らと^ら相^ら庭^らよ^らと^らは^らい^らと^ら大^らも^らみ^らの^ら集^ら人^ら
ら^らら^らぬ^らう^らの^らえ^ら糸^らの^ら口^らせ^らう^らも^らん^らち^らう^らら^ら
て^らと^らん^ら曆^ら漏^ら全^らは^らい^らと^ら草^ら堂^ら皇^ら子^らも^らみ^らと^ら
高^ら市^ら皇^ら子^らと^らま^らり^らて^らや^らま^らい^らこ^らり^ら
め^ら終^らう^ら川^らの^らえ^らと^ら此^ら日^ら廣^ら津^ら新^ら田^らの^ら神^ら
と^らま^らり^らら^らつ^らち^ら妙^らさ^らる^らの^ら日^ら地震^らつ^らら^らの^ら
と^らの^らう^ら此^ら日^ら膳^ら長^ら曆^ら漏^ら卒^らぬ^ら天^ら皇^らた^らと

ろきほして大^{みね}衣し寝る川のえ祢
の日摩備長よりうつのえさるれとれ
いさ^印とら^いひりて大^い北^の系^の位^のと^まひ^のたま
りの^と贈^てくまふ^ます^まき^まさ^ま死^ま物^まと^まあ^まふ
海^のつりさふる^まを^まへ^ま寝^まふ^まい^まの^まへ^ま河
の^ま日^ま多^ま祢^まの人^ま掖^ま玖^ま人^ま河^ま麻^ま流^ま人^まり^また
ま^のの^まく^まふ^まこと^まお^まの^まく^まし^まあ^まう^まつ^まち
の^まえ^まむ^まま^まの^ま日^ま集^ま人^まお^まり^ま飛^まち^まの^ま西^まり
食^みた^まふ^まら^まさ^まく^まの^まう^まく^まほ^まいと^ま度^まも
無

よけて寝るふことおのく若あり
たこるい人俗あまのくこれとんるこ
れ日志るれまきいのふるいりほ
うさく糸あり大見ふきて^こ穀^まに^まれ
とと

八月三川のえいぬの朝親王より下つ
ことをよむ法信よの令^まこと^まして各^ま法^ま式^ま
ふもらゆ^まふ^ま事^まと^まや^まう^まむ^まま^まの^まえ
祢の日高^ま集^まの^ま客^まよ^まは^まく^まれ^ま食^まく^まほ^まふ

この夕昏時^{いぬのとき}に^た野^のいり^り西
よつるいのえと^は此日^のは^今は^はく^あみ
あつ^つのうら^ら大^大蛇^あう^う川のえさ
りの日^日物^物ありて^から^らくりん^んぢ^ぢや^やの
と^とれ^れと^として^し火^の色^のう^うり^り
う^うみて^てわ^わり^りつ^つる^る毎^毎日^日これ^れみる^るあ
る^る人^人り^りく^く越^越の^のみ^みふ^ふい^いま^まう^うと^とこ^この
日^日白^白気^気い^いの^の山^山よ^よあ^あり^りそ^その^のお^お白^白さ
こ^こり^りこ^ここ^この^のこ^こう^う此^此日^日大^大地^地震^震

は^はら^られ^れえ^えこ^こう^う此^此日^日中^中一^一地^地震^震この^{この}日^日平^平
且^且り^り蛇^蛇あり^りて^て天^天の^の中^中央^央よ^より^りり^りて
り^りて^て日^日ふ^ふむ^むく^くき^きの^のえ^えい^いぬ^ぬの^の日^日は^はく^く
の^の太^太宰^宰之^之足^足あり^り崔^崔あり^りと^と申^申う^う決^決ま^まり
の^のと^とれ^れい^いは^はり^り此^此日^日み^みと^とあ^あり^りま^まあ^あま
り^りく^く云^云徳^徳こ^こう^うと^とい^いや^やま^ま人^人海^海こ^こん^んと^と
の^のり^りして^てあ^あら^ら海^海こ^こお^およ^よそ^そら^らく^くの^の
應^應考^考選^選者^者こ^こう^う其^其の^の族^族姓^姓を^をよ^よひ^ひこ^こう^う
る^るせ^せと^とか^かん^んく^くて^てあ^あさ^さぶ^ぶ後^後よ^より^りあ^あら^らう^う
考

備らんししは海路もせ行能いやり
るりとりふとてこれうかき
めどハ考選をよらんつられとれ
うーの目みことのうして日言の皇
女新交皇女のやまいのうめふ大倅いめ飛よ
る下ほくの男女つをせし一百九十八
これゆるやうらのうの百四十餘人
大官つらさ此大寺小出家いっても
九月かのとれうの朔しつのえうらの日

見ことぬうたきう今よりゆく
は美いさろく跳いやまひ旬旬しゅんひるひふ
うめて又う難波の相延の立うまふ
いやまひれとらわよかのえ縁の目まじま
のこころれ一板百のお白しろとつ大妻みや一あ
うりてあうくう元もとようきうとれのおし
りうしてこれあけ菱
冬十月つのとれうの朔つられえうの
の日ひ入鋪いんと

十一月のえとの初三のとれ己の四
 みとのをいりてあつはるゝ親王法みこと
 王とよい徳臣庶民ちからいりりて
 らまのくこれとていりおよそ法
 とおつまのものをあつらんあるいは禁かふ
 省の中あついは朝廷の中それあや
 せらたつらんあふもれららんさ
 くじまにくもことあつていり
 てうれおつにあつたのあつハ法ちからいり

としはるゝいりあつとハまなはら
 疑うたがより射押こしでもれらるゝものと
 その如の兵隊にうてこれをさうよ
 杖やうのし色よあつハまれらら杖し一い百いより
 下つゝさ級さいりてうてあつたあつせあ
 りらいちいあつとあつてはみ
 らしとあつたあつたあつたあつた
 してあつたあつたあつたあつた
 うさつてその本のほみよあつせ

十二月のえつふの朔のえいぬの
日みこむらしてのいほむら法氏人
等おのく氏上るうらふものといひ
めて中とくれまうその後くまう
くんへふものそすれちちかておのく
氏上らぶめてるひよ友母つとむよす
とくれまふてのらむのうら
とくうておこるへふて官利とら
けよめいといふのいよよておの

つやうにあつて人いとをばたやま
くる附そ
十二月のえつふの朔のえいぬの
のえつふの日百寮みとがうみとほ
くらの右宰母むらうれまう人等等の
足あつてめとてまけらきとのい
はりの日親まうらつとをよひはら
きみこらと大極殿の前よめして
どのりうらつてのめいりふむら

ともてまらきこくならにふもまらひ
のえじまれ日みことのりしてはるは
りく明神とお不や一はるを日本
の天子のたふんことつと法園司玉
造羽司とよび百姓も海もふさへ
一腹くづめてあす何日はふあ
一このころ天陽一二はつもふい
一さきりはくく一さく々の天陽も
りこととおこるふことさる天のたふ

くあひてそれとらこくふいま
腹せしあつてあひよかこひてい
きはつひいをれとらしてうこは
り一あひいをれとらしてよあこ
ら成りて親王徳王とよひ祥御つさ
はるさるふいよ天トれおあん氏と
にあい散るうをれとら小建より上は
一たまものあまふおのく若ありよ
て大碎死より下はこをりてこれゆ

るてふまじく百姓のえし保らおほむと
るいよゆるはこの日小整田の舞と
いふこま兼百領新舞三國のうくには
いとおん座中ふはうりまらふ

二月つられとのいはおちのの初大津皇子
いあさめて朝政りきりまら

三月つられえ祢の初つられとのり
の日そ僧正き律師つとりほまよてりて
みとのりりてりまりくり僧尼りとり統き

領おんと法のりといいのえむまの
日多い祢りまりくり使り人りふりま

夏四月ほちのえむりの初りのり
れ日みりとりてりはりまりくり今り
ゆくり死りつりるりもり 嗣あか後ねとりらりいりより張り

後りるりみりらりぬりえりまりのりとりれりいりの日り見りことりれ
アりてりはりはりくり張りらりゆるりことりな
とりめりそりほりちりのりとりれり日り廣り嶽り新り田りのり律り
とりまりらり

六月いのとれこの初つちれとれいけ
の日大はのむす^{うまき}多^{うまき}薨と天皇
大よ^おとらふ^ふま^ましてとれ^とち^ち泊^泊
王とま^まして^てま^まく^くハ^ハめ^め給^給て^てま
い^い川の^のえ^えさ^され^れの^の勲^{いささ}績^{じき}と^とい^いえ^え
祖^お等^との^の毎^ま時^じの^の有^あ切^きと^とあ^あけ^けて^てま^まて^てれ^れ
了^り家^め考^くい^いま^まふ^ふま^まれ^れま^まち^ち大^お業^{ごう}位^いと
贈^おま^まい^いつ^つみ^みち^ちふ^ふえ^えふ^ふて^てこれ^を
ま^まふ^ふら^らい^い川の^のえ^えい^いぬ^ぬの^の日^ひ之^の位^い高^{たか}王^の

秋七月い^いの^のえ^えい^いぬ^ぬの^の初^{はつ}つ^つち^ちの^のと^とれ^れふ^ふト
の日^ひ天^{てん}皇^{こう}後^ご姫^{ひめ}王^{のう}の^の家^けい^いで^でま^まして
や^やま^まい^いと^とり^り先^ま給^{たま}の^のへ^へと^との^の日^ひ後^ご姫^{ひめ}
王^{のう}薨^{こう}ま^まこの^の夜^よま^まし^しめ^めて^てあ^あま^まと
言^いて^てま^ま中^{ちゆう}小^{せう}ま^まつ^つて^てむ^むす^すを^を伴^{ばん}行^{ぎやう}者^{しや}
三十^{さんじゅう}人^{にん}と^とえ^えい^いて^てお^おお^おセ^せマ^まと^とか^かの^のえ^え
祢^ねの^の日^ひ雲^{うん}も^もい^い川の^のと^との^のう^うの^の日^ひ天^{てん}皇^{こう}み^み
や^やこ^こと^とめ^めく^くり^り給^{たま}ま^まの^のと^とれ^れこの^の日^ひい^いろ^ろせ
い^い川の^の祢^ねと^とま^まい^いら^らこの^の月^{つき}より^{より}ハ

一めて八月ふけるまで見せりをもる
道のり——道筋あまひりて雨と
えりり

八月いのみ川の朝のえくるの日天下
ふ大雨はもむらと大伴連男吹負みゆ
りぬえ川のえくるれぬのいさおりと
わて大伴中れくぬを贈りまふ

九月ふのとれりりの朝いのえいぬの日
大見ふいとのひりしの日倭直栗

隈と水ぬのさやははこ久田助のさや
はこはら——の造とさうらの造さーい
ぬさらの造おり——川のあとい川内
倭直りののさると山背五つさ
のあ——い激服初さやつこつと——のあ——い
のさり——の造さうらの造さ取さやつこま
目とりのさやははこ松隈さりの造
大和造さうらのさやははこかたせのさ
のさやははこまさと馬飼造うはらのじま

ういの造きさみの黄文造きさみのもいものきさみのやほきさみのこ句
其し作し造しいいそのそのくくみみべべののややつつここたたりりひひま
判判れれややほほここくくせせつつりりのの造造元元徳徳記記
造造志志ろろ久久ののややつつここををししるるみみのの造造
むむつつせせののややつつここ文文首首ををししるるせせのの造造く
百百濟濟れれ造造りりいいののみみややほほここをを入入ててこ
十十八八氏氏かかららののととああららひひてて連連ととりりふふ
冬冬十十月月三三ののととれれううのの朔朔ににちちののととれれい
ははししれれ日日三三宅宅吉吉士士とときき久久のの吉吉士士とときき
後後發發

ききれれややほほここ船船史史ゆゆふふののみみんんいいとときき
らられれ馬馬相相造造ののむむままささのの造造りり
野野のの首首紀紀海海人人ああいい乘乘女女造造ああとときき
ののみみんんいいとときき弟弟りりるるぬぬ磯磯成成ああるる
ここぬぬりりかかみみははららのの造造るるいいよよ十
四四氏氏りりののととたたりりひひてて連連ととりりいいのの
ととののううれれ日日天天皇皇念念棟棟よよううりりとときき
十十一一月月ききののええすするるれれ相相いいののととののいいのの日日法
國國法法ししてていいくくささののめめををああららししむむ
孫孫法法

いのえたるの日新既よりさしけんこん
もさん ゆみ め 密 金
主山丈那末金ちやうと 長 志 と ま し
てみつようてまけり

十二月きのえとくね細ひのえとくの
日法王女位仁塔の王といきんけ羽田くの
八國せうきんけおふのきんふ佐小津
下るるとみのむし大務るひい
判官源史工通者あふまき て 天
下よありて諸國のさくいと限分
巡り 行 境 堺

志くれもくし限分たへむかの
えむまの口みとけすてけは
くく法文武のほくさいいとよい歳
肉の有位人等よりのめにつさに
うるも み と ま い り 死 病 あ り て
え集りもハそのほくさつふさ
あつて法官ア中とくれは
みとのうしとけはほくおよそ
城宮室一知よあつてもうあつても あ る こ
こ が や あ る

らうはくしん夜先難波小郡ついで
とぶしんばらて百寮のいとおの
ほりうま 家と 心と 心と 心と 心と
十三の妻正月三日の 入るの初めのえ祢
の日上野あし 一わ 一内苑さぬぬいの造
二氏に つひと たり いて むし とい ひ
のえ むまの 日天皇 東庭 ふた とい はも
ほり さえ し ち と ん へ り 時 ふ よ く 射 人
と よ い 珠 傳 い つ ら み さ の 倉 人 お と め

して射と

二月 ふ 川 の と の う 一 此 初 い の 一 祢 の
日全 全 山 よ は く し よ 餐 く 一 ま か の
え し 河 の 日 一 や く り 一 廣 津 王
せ う ん ち う 大 付 ひ 一 あ 麻 呂 と よ
び や う り い ひ 一 深 奉 と ん や う 一 工
近 ふ と 畿 内 よ ほ 一 て 郡 は く う 一 ま
地 と み 一 め さ 路 結 ふ こ の 日 三 野 王 小
降 下 し め の と ん 流 産 あ と 志 な の 小 ほ

宋 如

信 徳

うして此のありしころをさせしめ
終ふこの地ふたはくくんと終ふ
三月う川のこれいつれ朝のえと
の日若野人宇間直ら志らほそと
あてまつるかのこれうの日天皇京師と
めくしてま室のころとさこめ終る
そこのとれえの日金立山よと
友に月う川のえ祢の朝いのえう川の日
徒飛う下はくこれゆつたふきの祢

の日廣徳の大臣祢あつこの風神と
ま川うのこれいつれ日せうにえは
う向屋戸若とあははくいと小山下
於勢長く^{つね}を小使とるして新羅
りほくも
四月う川のえむまれ朝いのえいぬの
日みこのうしてめうほくえん
九月ううもけみうむよそとて
百寮の^{つさく}あしひよそゆいとさうゆ

又是こと始りしてのいほくたよ
政まつりごと要のねまし軍事ありこといひて文武
はつされいとくはとめて兵つひのとら
いさよのるをいさるもれそら
馬兵ありいよみのよそいの物はふ
よはそのた儀た是たはよめよそれ馬め
らんものしむまのりいさるま
るまののハち率つひとせよなういよあ
よころんとはてあてあつめはど

物するまをいそむとけりふ
こよふて兵つひややくは改たはよ
そふいせら關つとあんいとハ親王より下は
一法長ふとよふまてあひよ罰つてん
大山位より下つこのいとハかろく之は
へきとハくく人ら扱らへきとハくく人それ
はとめるりいしててよく業はえん
ものもり死し死つといふともそれとら
二等位へらつんあしこつえとた

のみてこのゆいよあつらんものいほみぢ
と例よえんて又みことせりて
のいほく男女をひ小衣服をまそ
つさあつ襦るよとい結紐長紐
いほのまにきよそれ舎集らん日
小細の衣ときて長紐はあよ
男女ハ壺ある冠ふりて松結の
きよ女とて口十より上ハ髪
とばれとよひるよのことはあてよ

こりいよあつれきくろり別よりん
衣結のたぐいハ髪あがる例
いほのえい何の口三髪五ふ志るの
玉の巻とてすつるいのとのとの
日系中ハ役亦とよてつみあ
舎人ふあゆらとよこのとのえの口
寺の衣より福揚より下つる
坐もろのいぬの口より福揚
ら顔と刺て死と

五月のつのとれいの朔きのの（祢の日化来
 くる）れ僧居とよい俗人男なる
 いや二十三人にれむさうにれよよん
 づらつられえさうれ日三悔川田
 懸るとハチ呂と大使とくくしり
 のひり人足と小使とくくしてさ藤
 小梅つとも
 六月のつのとれえの朔きのの（さるれ日あ
 まさひも

秋七月かのいぬの朔きののつのとれ
 の日度濃よいてまををつられえむまの
 日いろせ新田の神と梅付るさう
 れえさうの日くさうり西水りお長
 大あ梅り
 冬十月はらうのとれうれ朔えことれう
 してのさ梅く徳氏の族姓を何
 らくめて八色の姓をほくうてめて天
 下の百姓をさうす一よを真人二よを

百頃^{こらう}没^なて海とるれり古老^{おいひと}のいつく
めくれこく地^ち筋^{しん}といきこりてあ
さるくこの夕^ゆ鳴^な一^い名^なあり鼓^このこく
て東の方よきこゆ人あひていつく
伴^{ばん}を流^{りゅう}の西水^{せいすい}二^においてをのけり
増^{ます}益^{えき}こし三百^{さんぱく}大^{だい}りり更^{また}よ一^い流^{りゅう}とされ
りそれら鼓^この音^ねのこくくろくを
この流^{りゅう}をつくまきいじきりきめむ
まの^ま日^ひ法^{ほう}王^{おう}御^ご等^{どう}たよまのこま

十一月つらのへさるの朔^{おんみこの}大^{だい}三^{さん}悔^{くわい}天^{てん}お大^{だい}
りまられとん阿^あ倍^{はい}長^{ちやう}巨^こ勢^{せい}長^{ちやう}一^いハ
てのとん紀^き長^{ちやう}は^は知^ちれとんもの
一^い平^{へい}祥^{しやう}長^{ちやう}の^のとん中^{ちゆう}長^{ちやう}遠^{えん}大^{だい}宅^{たく}
長^{ちやう}栗^り田^{でん}の^のとん石^{いし}川^{がわ}長^{ちやう}初^{はつ}の^の長^{ちやう}
采^{さい}女^{にょ}長^{ちやう}田^{でん}中^{ちゆう}の^のとん小^{せう}磐^{ばん}田^{でん}の^の長^{ちやう}穂^ほ積^{せき}長^{ちやう}
や^や山^{さん}肖^{しやう}流^{りゅう}の^のとん鴨^{あひ}平^{へい}と^との^のとん小^{せう}野^の長^{ちやう}川^{がわ}巴^{おん}
の^のとん株^{くさ}井^い長^{ちやう}柿^し本^{ほん}長^{ちやう}恒^{へい}流^{りゅう}の^のとん長^{ちやう}
株^{くさ}流^{りゅう}長^{ちやう}眉^{めい}田^{でん}れ^れとんあ^あむ^むこの^のとん
向^{むかひ}長^{ちやう}

あつとものとしん来目長いぬぐみの君上毛
野君はのとしん星川長お不のとしん
ろりこれ君くるまらるる君あやのきみ下
道信伊賀いっのとしん阿岡長くやとん
波紋信志下毛つけの君佐味君道守信
お田の君大野さるりこれとしん池田さみ玉
手信大野筆とくおよそ五十二氏つりのと
たういて胡信としんかのえいぬの日出た
の團司みとまうけく大湖お不あうあうて海

水不うとよふとれよふけてる月君としんこ
ふ和こ多し投交ぬつちれえあけの目
いぬのとれよあけのしんにあけ東水ふ
わ流うてそれしちおけろかのえむま
れ日ころの時よ星いかりこれ方よおけろ
大さ不倉のしんいぬの時よとよんで
天文あめつあやことくききこれて星おつろこと
あのことこの月星字乃中央よあけ
て昇星せりとるいいてゆく月書つこよとよ

んてうせぬこと〜〜〜とぬるおほほ
く坪のいせそのおほほにふ今来りゆく
く此洞みつぶの〜〜ふ役とゆる〜〜役のこ
〜〜ハ〜〜にきぬゆ〜〜との〜〜は
やま〜〜れ〜〜ふの下のこり〜〜よ〜〜は
あ〜〜り〜〜ふ〜〜あ〜〜と〜〜と〜〜と
たんと玉浦上れこり〜〜十二の角つ
あ〜〜續あり〜〜と〜〜は〜〜と
十二月つらのえ〜〜れ朝つらのとれ

うの口ス付連こ〜〜のひ〜〜あつみ
ひ〜〜忌部連お〜〜のひ〜〜念ひ
る〜〜とふのち〜〜とのひ〜〜と師連
りひ〜〜〜〜のひ〜〜〜〜ぬた
〜〜のひ〜〜伊初連〜〜ん〜〜ひ
〜〜懸壁連〜〜のひ〜〜やけひ
鬼初連ちこたまひ〜〜丹比連いひさの
あ〜〜のひ〜〜ぬ〜〜ひ〜〜大湯人連おひの
湯ひ〜〜ち刺連しんとりひ〜〜

額田郡連津ち連あ〜いぬいひり
 づいぬいひのひり〜あほおやひり〜新
新 太 長 玉 太 長
 田郡のむり〜志つとりのひり〜氷連
山 文 山 郡
 お〜さきのむり〜やまのむり〜矢集連
丸 山 郡
 さ〜めのむり〜ほりき〜みのむり〜阿
狭 井
 刀ひり〜う〜のむり〜田目連小ぶれ
英 田 郡 ら い こ へ
 連うら比のひり〜あ〜いのむり〜あ
菖 道
 まの太妻むり〜う〜とのひり〜
つ く め の
 春米連みのひり〜徳倉伝あの連
布 為

五十氏ふらりのとた〜いて宿務といふ
 ら川のとのいつ〜れ日太唐ののあ〜い
と と 呼 宿 務 志 つ わ の ふ ん い と 齊 久
 然と〜い百原のえ〜らのとさよ〜れ
 へ〜におさめれ〜いと猪使連こ〜
み や け の
 へ〜れ三宅連得許新舞〜り〜
り り て い ら る を れ ら ら あ ら ふ ら り
 京未金物傳をき〜して甥あはは〜り
 小〜くあかのえ〜りの日死刑〜り下
こ う と つ み

はるの飛人をやめては純ゆる事
十四年春正月己のとしにの初
つらぬえころれ日つうさく 翔翔走ひ
のとれうの日記よ 爵位の号をあら
むして階級とまも 明位二階淨位四
階あることに大廣ありあこせて十二
階以來ハみこころうよりよつこの位な
り正位は階なり 直 階は階なり 節 位は階
務位はあらふに進位ぬばしなることよ
大廣ありあこせては十八階はは徳長
の位ありこの日華皇皇子に 階 大
く いらわ 皇位とすけすは清皇太子ふ 階 也
ない にか 皇位とすけすは清皇太子よ清廣
皇位とすけけ川徳皇太子 く の皇
太子 さえ い 皇位とすけすは す ふ
より下つて徳王徳長等より位を
ま おの く する あり

二月己のとしに は 翔のえ は 川の

り終へし人百源人等素人あはせて百
四十七人ふりつゝ位と一しつゝ
三月いのえじまの朔つらのとのいつ
の日金物儒こえりもよはく一小養たすふまれ
しらほく一しつゝえらふてなれつ
つゝ一形屋人七口物儒よさつあてふ
もよとれつりの日みやとつらのみ京藏大史らふくふ
人巨勢こせ新長率し檀勢率のねえ何のえ
つるれ日ふことめつたまはく徳園に

ことにふしげのみあつとほくつて
をれしら佛縁とよひ縁とおふて
て礼拝らいはい供養せよこの月灰えるのよ
こあつてまふみむ松ぬ
夏四月いのく縁の朔つられつりの日さ
の園司こじまはく年妻むらの湯役ゆたれてかま
いのとれいの日ひろせあつこの縁とま
はるうつゆえり何の日新屋人こえりも金主山
くつらかのえ縁の日とめて佛尼を法

てま中よそんつと

五月いのおんじまの翔あえいぬの目南門
うこるもと天皇おちちふいてまして
たくものをもて佛よつてほつて
いやほひ終ふまのえ祢の目直大肆粟
田胡長キコクとくめ狐文ウケふゆつる志
れともふこと終つてゆつたれともこの日
直大参チダイサンあいまのまへ人廣に召率ねえり
のえさるれとのりつとてあま

くたいくらた重臣と贈るまふかのとれいつ

の目ち向胡長麻呂はのあそん牛飼

ホ志ホシふよりいつるをれもちあめ

くひくひぶつぶつ親常クニトコふんくりん志つて

つれり新孫王れしてまつりあ馬二天

大ニあじつら鷓鴣二隻鶺鴒二隻とくひく

さくのあつ物してまつら

六月きのとのいの翔まのへむまの目大倭連

高城連凡川内のひつら山背連るふし

ひしし紀海人連やままとあやむしし河
内漢連素このむしし大隅のあしいん
のむししあをせて十一氏は姓をたし
ていし志すとし

秋七月きのとれみの翔さのとれう一の
日ししめて明佐より下佐し進佐より
上佐しこれ翔服の色とさしめ給ふしや
あししとハるしいよ糸美とさしは正佐
そふらむしは直佐ハあさむしは勅佐

そふらみしし原替佐ハあさみとり進佐
そふら願いそめ進佐ハあさゑいそめ
かのといつしやまみちの日みことむししてれ
ましし東山うらみちハみのまよりひし
東海うらみちハいせのまよりひしおのせつのふく
の佐あし人ふるしおのせついよ深俊しととゆ
るさふ

八月きのえいぬの翔さのとのとりの日
天皇降古ちふいてしとひのえいぬの

日川原ちよいてまゝして福と流傳りやうに施る
ふらけのとれえの日統孫よほくし使
人ホクろ

九月さのえしけの朔しつの初はつの日天皇
恙あやまの安殿あんとんのおゆしふこよのあつり
孫まごふこの口いけふのみこより下けり
思おもひみこしりりるまて布ぬたまふとおの
若わかあつさのえとこれ日ひ文ぶん属じゆ王わういりせま
越こ波は王わう作しやく田てん王わう孫まご勢せい王わうと系けいとふい歳さい内ないよ

まゝしておのおのおひんおひんのつのつ
のくえくむつらのえむまの日ちち
くく勢せい朝ちやう長ちやうと東とう海かいの
役やく名なととららふふくくりり石いし川がわのあそん
虫むし名なととままののちちれれ使し名なととららふふく
川がわ佐さ味み朝ちやう長ちやうとと山さん陽やうの
役やく名なととららふふくくりり巨こ勢せい朝ちやう長ちやう
ああししららとと山さん陰いんの使し名なとと正せい度と冬とう
みみららのの日にちとと孫まごとと南なん海かいの使し名なと

しちちるくりしし 休休の宿録いざ

とつくりし使名とありしあのし

利友一人ありといと史一人えいと圓司みとえやつことよひ百

姓のありしとをきしあ終この日みと

のりしてせしあおよそしつくりの

秋男あきをと弁女べんな笛吹者ふえひきもれもちああのっあ子こ孫まご

了あてて秋笛あきふエとをりしあめよかのと

比あとりの日天皇大安殿よおしあはて

玉婦等あに殿のあよめして博戯あし

め終この日あま殿あするふあしあれみあこあもあけあ

んこさ國のほあしとあまあありしあいあぬあうあいの

者終おふとも大付あまあくねみあひあきあ境あ詔

宿録あいあしあつみあ多あ朝あ臣あはんあちあのあめ

のあそん竹孫あああらあしあれあ終あ臣あ大あしあ満あと

へて十人あにあ衣あしあるあるあるあつりあしあのあいあぬ

の日あ白あ皇あ太子あよりあ下あつあるあ法あ王あ婦あよあとあよあ

ふあしてあああしあせてあ四あ十八あ人あよあ以あ終あ皮あ小あ

羊皮あとあたまあしあふあのあしあるあああつあるあのあとあれ

いの日高繁國よまじく〜使名示く
いのとのうの日天皇らやまひ〜終之日終
と大はくさ大寺川原ち花ちちによま
〜むよつて福とりつて三寺よぶさ
め〜ふたの〜差ありのえむまの日
化来言藤人ホ〜たまのあまふおの
〜差あり

冬十月之付のとれ〜此朝いの〜終の日
百俵のり〜常輝村三十九戸〜あふこ

のり〜秀百葉の〜りの日百
俵のり〜は〜は優婆塞サ〜サ
この金きん幣へいとえのふよ〜てとけ
と蒸に〜むよてこれよふとさぬ綿布
とあふ〜川のえむまの日怪部あそん
足あし〜あし多〜の〜と新系あ〜おの
ひ〜麻呂とえるの〜玉〜あ〜
て行ゆきままとひ〜〜むき〜〜東間つしまの
湯湯小いてほ〜んとかふとら〜のえ

さうらぬ日降大肆伯康王あふく
群 巨勢が船長むまうい判官より下つ
りあせせて二十人と畿内の役よ
ほらのとれうし日降大肆伯康王あふく
うゆくよそりて衣袴をたきふこの月
金剛般若經を安中ふらうむ
十一月三日のとれうの朔のえうの日
徳用の織一万疋もしれ惣令所り
ほつとすけうの太宰満もほけ

の物絶一疋足絲一疋疋布三百端らう
ぬの四百常袖らうの一万疋紫竹二千
連はくふくはつとむいのは
まの目四方のむらみとぬらしてぬ
ほく大角小角ほくみふ急幅襦をよ
いお不ゆみいしむの多くいし私
の家よぬくもこれが家よあさめよ
つらぬくさるの目白綿の後荒らいて
まもいのはるの日はあふくし金鐘

白木の黄きり孤めてすけりこの日天
皇みはまろしつられとの
その日新死より波泳喰金智祥大阿
喰金けんきんとまじりて改と法を
よてしけよしてまろし

十二月しけのえさるの朔このとれいの日
はくしれまじり防人ふ海中にぬ
よいてしれ衣裳とろしなつるまれ
しから防人の衣服のしめし布は百

五十端とりてはくしふとろし終かのと
のみの日西のしよらうりて地震い
のとれいの日絶綿布とりて大宮大寺
の僧ふしとろしはるかのとれ
日きさる此の命とりて王弼等あすか人
小朝服おのしそろし

朱鳥元年壬正月しけのえさるれ朔
しけのとのうの日大極殿しおしは
して後王弼ふとよのあつたまふこ

の目みことのりしてのほろく服王卿
小端事あしやうしとめてとらんをれくら
こくしてほろもよほととえそが
るもまたまのせんとのほろくに
高市皇子とつれてほととめてこ
へて泰階たいかいの西衣みせ之具ぎふさのこほ
二具ふたるふたいよふとさぬ二十疋ひき線いとお十
斤しゅう綿わた百斤布ひゃくじんふとたうちうち伴ばん啓けい
五ごすす実みとえてとるくら皂そうの西衣

三具さんむむささ此こゝのこゝほ二具ふた絶七丈いと二
十斤しゅうここ四十斤布しじゅうしんふは十むじゅうとと一いち
りこの日ひ法ほつのの圓えんの人ひと百ひゃく新あたら興か白馬しろば強かぢと
きてままつつるるかかののいいぬぬのの日ひ之の細こ津つ師しと
よよいい大だい官くわん大だい平へい知ち事じ事じささくくりりんんままいいよ
九く倍ばいとと法ほつててももくくととのの供く書しよととままてて甚しん
きよきよてて絶つ綿わた布ふととおおくくるるととおおののくくりりま
あありりかかののととれれいいのの日ひ法ほつ王わう卿けいふふおおののくく祀まつり
くらくらほほ一いち具ぎたたううううききののくくのの日ひ法ほつ大だい

あつと
人々をせしむる事。醫師者あり
は條人をめしして食をよむいたすもの
をさうさうのとれうの口さうの時強は
の大勢つらさ^{しらまれ}失火て宮室ことくく
登けさうある人のいさく^{あとの}内斗連こ
さうさう家の失火ありさうて宮室よ
とさうさうもさう^{ふゆつさ}兵卒職しやけもいの
とれその日天皇大安殿におりしは
し法王師をめししてさよのあうた

まふよてりて絶綿布とさうはふこと
おのく^{あつと}君ありこの日さうさうみさうさ
無端事とさうい^{あつと}終ふもれしらその時
突とえさうさうはさうして綿絶とさう
さうさうれくじまの日後^{あつと}まふとよのあり
りし終ふつられとれいつれ日朝庭
小大鋪^{さひのみ}もこの日以^{さむらとの}幕殿のあよたさうは
して^{わさいと}侶僚よまたさうのさうさうとさう
あうはさうさう人ふよ絶^{さふ}さうさうさうさう

のえさるの日地震この月新羅の金智えんろ

降小餐たきとんこめふく廣律六

ちれ五直廣参大伴の希孫安平呂ら

よくもいしりるの羽長大しは

ちくくくし一環形もくねこのち直

廣律穂積細長うしはろおははくし

ふはくし

二月かのとれいはし一乃細さのえいぬの

日大安殿ふおし一はをきとまらてさみ作長六人よ

勅えん位とあし一はふさこのとれいのみ

ことれし一は徳園司いさ一あり

と九人をえし一ひて勅えん位と授あるふ

三月ののとれし一は朝いのえむまの

日大毎官ちよくもいさ一し一のほ

うと八國やま一いもこれり一めよ信え

度とかのいぬの日帝一ある一のとのりし

の日羽田一六人八玉率ぬ一川のえさるの

し一れ功として直大一臺い位と贈しは

ふー

夏は月々のえむまの初いのとれうーの日
侍醫くはのきり兼村主くろ訶於ふらうくくし
と授ふふふれよよて姓とあういて
むーととりふふのむまの日新羅の岩
ホー餐うほんこめふ川系寺の役兼
とほくふふふりよてきていのみや
のこりーれ箱お十束とりて川系
寺よおさむつらのえ祿の日新羅の

こてきんろふはけりーより多てほ
はろ細馬一疋うまうさねむま一うらた二
物ここののうまの倭金急とふい金張うまみいろの
みーきく後おふふみの皮とよひ
茶物のくくいろひよ百箱あち種中
しんじんおっ列としてほりり物
金張綿履倭羅金急屏風うつ襖皮さ
ぬ布茶物のくくいおのく六十作行と
ふきさうれ皇太子とよひ祿親王等り

たてまつりし物おのゝ教ありいのえさ
るの日多紀皇女いさめみこやまゝの姫王石川史いさ川の
人と伊勢の神いせのまゝりまゝも

八月かのえ祢の初つちのえたるれ日多
紀皇女おいせよりいりるこの日侍あつとく百
條の人いづくにやまひて死るんとも
すれまゝりいん大妻佐とすろけよて
一ひゃく戸封とをい川のとれろれ日大官
大ちにみことめろしとて七百戸と封を

もれまゝりみちう統と三さん万まん衆しゆとたえいいの
い川の日ま人ホあり位とまもい川の
とのいの日天皇やまひし終これよよて
川原寺よ登ろ終ととれま中ふと
らむはちのい川の日えら金智ち祥さむよ
はくくに養一終縁えんふふとあのか
若あもれまらはくしよりほろね
この月みことめろして左右の大舎人
ふぬまゝして流るの堂たう塔ととこさ

よめすれとち天下にお白きよはる
も^{いとや}因縁もてよむる

六月つちのとれその^{つちのこのよのせうら}新報本村主勝

子^姓呂^姓ふりいひとてむりとい

ぶよて^ふこんい^姓貴位とま^ふ二十戸と封

まかの^二むまの^二日^二あ^二く^二み^二陰^二陽^二師^二お^二わ^二と^二

く^二も^二い^二の^二海^二う^二れ^二ま^二生^二と^二い^二一^二二^二の

官人^二あ^二い^二は^二三^二十^二に^二人^二ふ^二り^二位^二と^二あ^二

い^二は^二ふ^二ま^二の^二と^二れ^二い^二の^二日^二法^二司^二人^二等^二功^二を

へるいと二十八人とえりみて爵位とほ

したまふはらのい^二の^二日^二天^二皇^二の^二み

やまいとト^二ま^二す^二羊^二薙^二奴^二と^二れ^二り^二我

の^二日^二お^二ま^二りの^二玉^二鬘^二田^二の^二や^二い^二海^二よ^二と^二く^二り

とら^二は^二か^二の^二い^二あ^二の^二日^二雲^二も^二ま^二の^二い^二さ^二る

の^二日^二伊^二勢^二王^二と^二よ^二い^二及^二人^二お^二は^二飛^二鳥^二寺

ふ^二ま^二い^二り^二て^二流^二俗^二よ^二み^二と^二の^二り^二て

れ^二い^二は^二く^二く^二追^二者^二服^二身^二や^二く^二ま^二を^二給^二う^二ハ

く^二三^二實^二の^二い^二こ^二さ^二か^二い^二は^二の^二ふ^二え^二よ^二す^二り^二て

身こ神かみやままりりるるここははええんんととおおしし
ここととししてて信しん正せい僧そう都ととといいししううくくの
ああららししいいちちふふへへししももれれらら先先
ほほししききああららとと之之實じつよよききててままら
りり娘むすめこのこの日ひ之之經きやう津しん師しとといい口くち寺てらののまま
やや知ち事じうういいしし現げん有ゆう師し位いのの僧そう等どう
ふふみみけけしし衣い被ひとと絶つるるああららおおののくく一一具ぐ
いいののととののいいのの日ひみみととめめりりししてて百ひゃく官くわん人にんふ
とと川かわ原はら寺てらよよききししてて燈とうととりりしして

供く養やうををららささししむむよよてて大だい奇きししてて悔けここ
ままいいののええささららのの日ひ法ほふ慈じりりしし義ぎ我が照せう不ふ
ううしし老らうとと屋いししららりりんんここめめよよおおののくくこ
十じゅう戸こ封ふうととかかののええととししのの日ひ若わ法ほふののくくり
ややつつううささふふ火ひほほりり

秋七月しゅうしちがつききののととれれいいのの朔しやくののええ祿りくのの日ひええここととれ
りりししいいししほほくくまましし男おとこ史しとと恒つね農のう長ちやう長ちやう
しし婦た女にやめハハ登あ媛ひめ干か背せももららししととららとと故この
ししここよよここのの日ひ信しん正せい僧そう都とホホふふ中ちゆう

ふはらへおむむきて悔^け色^{しき}もつ^つの^のとれ^れう^うの
日徳^に國^こよ^よみ^みと^とめ^めう^うて^て大^およ^よく^くう^うと^とも^もこ^こ
川^がの^のい^いく^くの^の日^に天^{てん}下^げの^のい^いく^くを^をと^と申^まへ^へ
し^しも^もれ^れら^らに^にた^たら^らを^をほ^ほく^くと^とあ^あま^まね^ね
く^くゆ^ゆら^らさ^さふ^ふう^う川^がの^のと^との^のう^うの^の日^に幣^{へい}と^と紀^き
伊^いよ^よは^はし^しは^はと^と皇^{すう}神^{しん}飛^ひ鳥^{てう}の^の口^{くち}社^{しゃ}
を^をつ^つえ^えの^のえ^え大^お社^{しゃ}よ^よあ^あて^てま^まつ^つり^り給^{たま}ひ^ひの^の
え^えじ^じま^まの^の日^に一^{いち}百^{ひゃく}の^のあ^あら^らし^しと^と信^{しん}て^て金^{かね}光^{こう}
明^{めい}鏡^{きやう}と^とま^ま申^まに^によ^よま^まし^しじ^じつ^つら^らの^のえ^えさ^さる

の^の日^にい^いく^くら^ら南^{なん}方^{ほう}よ^よい^いく^くら^らて^て一^{いち}い^い大^およ^よ
る^るり^りを^をれ^れら^ら民^{たみ}部^ぶ者^{しや}の^の花^{はな}庸^{よう}舍^{しゃ}屋^ゐふ^ふ
天^{あま}皇^{すう}ある^{ある}人^{ひと}の^のい^いく^く皇^{すう}皇^{すう}子^この^のま^まの^の
失^{あは}火^ひ不^ふと^とう^うて^て民^{たみ}部^ぶ者^{しや}と^とや^やり^りと^と
い^いく^くの^のと^とれ^れう^うし^しれ^れ日^にみ^みと^とめ^めう^うて^てめ^め
は^はく^くく^く天^{てん}下^げの^の事^{こと}大^お小^{せう}を^をい^いく^くも^もこ^こら^ら
く^く皇^{すう}后^{こう}と^とい^いく^く皇^{すう}太子^{たい}子^こを^をい^いく^くせ^せこ
の^の日^に大^お入^いり^りほ^ほく^くと^とま^まの^のい^いく^くれ^れ日^に廣^{ひろ}
く^くあ^あつ^つし^しれ^れ神^{かみ}と^とま^まつ^つり^りい^いの^のと^とれ^れみ^みの

日ごとけりしめてけりほくく天下の
百姓すくしきふすてしるしの猶ゆまとよ
い貨財たうきとのごうのしる

十二月二十日よりけりしをいみちやけこ
くくしといしをみるかかせとけり
すふけちのえむまの日えとあしめ
て来あつこちえ年としりよてえいさ
けて飛鳥澤原えとほくといのえ
ごうの日たころいむと七十人とえん
洋洋行行有有

てお家セさしめをれしち家申のほ
岩院とらみふ役兼とらみもこの月法王とらみ等天
皇のこめふくりんと人の像とけり
りてをれしち観音經と大官大寺
りしりしむ

八月つちのとれその朝天皇のこめふ
ハ十傷度いってもつれえむまの日ありしあ
まのこせて一百ふり下もよて百ふの茶ちや薩さつ
と文申りしりせて観音經二百卷
坐

よま——むひのとのう——の日天皇のうやま
い——終神紙ふ祈終ふかのとのえの口
崇^{そこのい}忌^いす^い石^い勝^いつ^いと^いま^いし^いて^いた^いの^い大
神よにてくくきく^いるこの日天皇太子
^{おろりの}大津皇子^いう^い市^い皇子^い小^いおの^いく^い封^い口^い百
戸^いを^い加^いた^いま^いふ^い川^い流^い皇子^いを^いし^いく^いの^いみ
こ^いふ^いこ^いお^いの^いく^い百^い戸^いを^い加^いこ^いま^いふ^いく^いの^い
と^いれ^いい^いけ^いの^い日^い基^い基^い皇子^い磯^い城^い皇子^い
よ^いお^いの^いく^い二^い百^い戸^いが^いし^いる^いふ^いは^いら^いの

う——の^{いのくま}日^い松^い隈^い寺^い恒^いち^い大^い宿^い寺^いおの
おの^い封^い百^い戸^い三^い十^いの^いと^いり^いり^いて^い由^いは
ふ^いかの^いと^いめ^いう^いの^い日^い巨^い勢^い寺^いよ^い封^い二^い百^い戸^い
く^いま^いふ^い
九月つられえいぬの初^いの^いとの^いう^いし^いれ
日^い親^い五^いより^い下^いつ^いう^い法^い長^いよ^いお^いよ^いふ^いま^いて
こ^いし^いく^いり^い川^い原^い寺^いよ^いは^いと^いて^い天^い皇^いの^いみ
や^いま^いい^いの^いい^いめ^いよ^いこ^いい^いら^いふ^いと^いま^いい^いの^い
む^いま^いの^い日^い天^い皇^いの^いま^いや^いま^いい^いつ^い井^いよ^いい^いた^いよ

とまを——て正おんま交ま——かみあつりまをまつ
ちのえつるれ日は——めていね——つてまわ
るをれ——らたくりのま嶺たまを南た庭た——り——り
うのとのりりの日南庭ふしりり——てま
れ——ちみね發た哀たあてす川たらこの時大津皇
子皇太子と——ふけんともりり終たま
のえ終たの日と——れ時終た信た尼た嶺たの庭ふ
——りてまわつりてまれ——ち満りて
ぬこの日と——めてた奠た——てまわつりまを

とち志のいことあてはつら才おん一たは
海み嶺た終たあた嶺た王たせれ事たとた珠たを次たは
——やた大た——いた——何た勢た王たみこ——ちのる
と志のい——終た次たは直た大た参た懸た大た表た
とく終た大た付たも——て——やたのたちのたこと
と志のい——とま次たは——やたくたり——
河内王たた右た大た会た人たの事たと珠たと次たり
ちよく——いたさんたあたいたまたのまた人た困た足た左た右た兵た
朱たの——と志のい——とま次たは直た大た驛た案た

女胡后いのみちらきみをく内命婦いのみちらきみのる証志のい

ことと次証よ玉廣肆証紀胡后証夫人証

いてはうさ証のこと証志のいこととそこのと

れう証の日証信危証ま証煥証應証よ突証たて

ま証らうこの日ち証よく証とい証さん証存証勢証の証

信証仲証主人証お証ふ証ま証ま証り証とのつう証され証と

と志のいことと次証よ直廣証免証い証その証の証上証証

朝証臣証麻呂証ぬ証り証の証ほ証う証さ証の証こと証志のいこと

と次証よ直大肆証大証三証備証朝臣証高証市証戸証呂証

理証友証の証ことと志のいことと次証よち証り証

くり証さん証大証付証宿証祿証安証麻呂証お証ふ証く証れ証

事証と志のいことと次証よ直大肆証さ証り証夜証系証

れ証朝臣証大証鴻証は証る証もの証つう証さ証の証事証と志の

いことと志のいこととれ証日証あ証り証あ証ま証あ証り証

衰証して証ま証ら証う証この日ち証よく証く証り証阿証

倍証久証勢証朝臣証麻呂証く証く証は証う証さ証の証事証と

志のいことと次証よ直廣肆証紀胡后証ゆ証み証

張証り証民官証のことと志のいことと次証よち証り証

川くりにし穂積朝臣麻呂くふく
のみことむらの事と志のいとも次よ

大隅^{あき}の多^たくやんととふい^いやまとりら

の馬^{うま}何^{なに}社^{やしろ}はこおのく志のいともい

の^の日^ひ清^{きよ}危^{あや}衰^しくそ^そく^くつ^つこの日

て志のいとも次よあ^あの^の遠^{とほ}く^く家

すふ^すおのく志のいとも^いつ^つて^て行^いく

此^こ辭^ごを^をは^はく^くす^す

